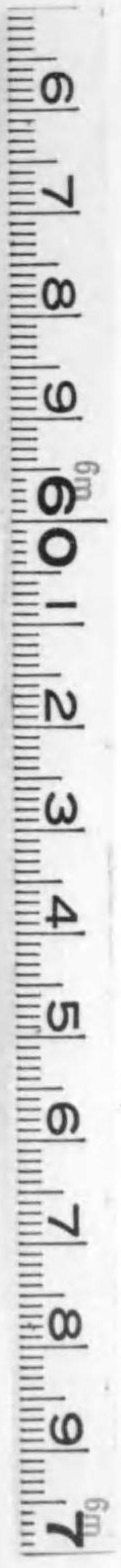


327  
866

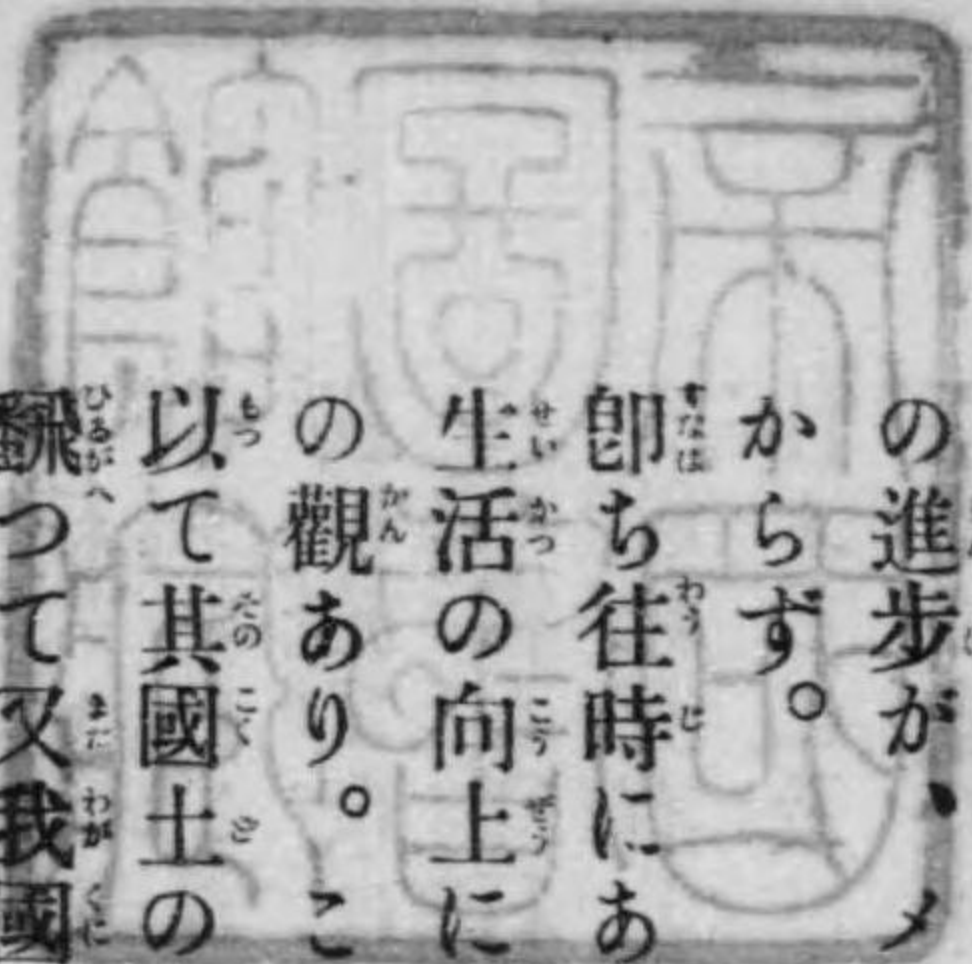


始



千原清氏著

實験メロン栽培法 全



緒

言

近來メロンの栽培愈盛にして、日を追ふて眞面目なる發達を來さんとするの徵あり。これ蓋し人文の發達がこの卓果を要求するの域に達したると、一つは園藝術の進歩が、メロンの栽培をして可能ならしむるに至りたるに因らずんばあるべからず。

即ち往時にありては偶々良果を産するも殆ど顧る者なかりしに今や即ち然らず。生活の向上に伴ふて其需要年と共に加はり、時には驚くべき高價をさへ惜まざるの觀あり。これメロンが文明の蔬類たるを示すものにして、これが栽培の消長は以て其國土の文野を時度するに至るこいふも、強ち過言にあらざるなり。

翻つて又我國の園藝を見るに、近時その進歩は極めて顯著なるものあり、嘗て最も難しとしたりたるメロンの栽培も、今や室内栽培にありては、毫も原産地に劣らざる良果を生産し得るに至れるのみならず、木框は勿論露地に於てさへ佳品を作出し得るの域に達したり。これ我國園藝界の爲め尤も慶ぶべき處にして今後メロン

正  
5. 8. 16  
内交

の栽培は益盛に趣くべく遂には余の理想とするが如く、在來甜瓜の位置に代らしめ得るの時代に到着するなるべし。雖も、悲哉現今我國には未だメロンに關する著書なきがため、多くの栽培家は適從する處を知らず、屢々失敗を招き、又辛じて結果せしむるも其質不良にして、在來甜瓜に劣るが如き無價値の物を生産する者少からざるが如し、これ斯界の爲め最も遺憾とする處なり。

茲に於て余は從來の經驗を江湖に發表せんことを企て、淺學菲才を顧ずして今茲に本書を印行せり、余やメロンに關し造詣深しといふにあらざるも、十餘年來深き趣味を有し、嘗て帝室御苑に於て親しく福羽子の指導を受け、後大谷光瑞伯に仕ふるに及び、二樂莊に於て多年大規模の栽培を行ひたるの經驗あり、聊か自ら信ずる處なきにあらず、この書幸に斯界に裨補する處あらば、余の大に満足とする處なり。

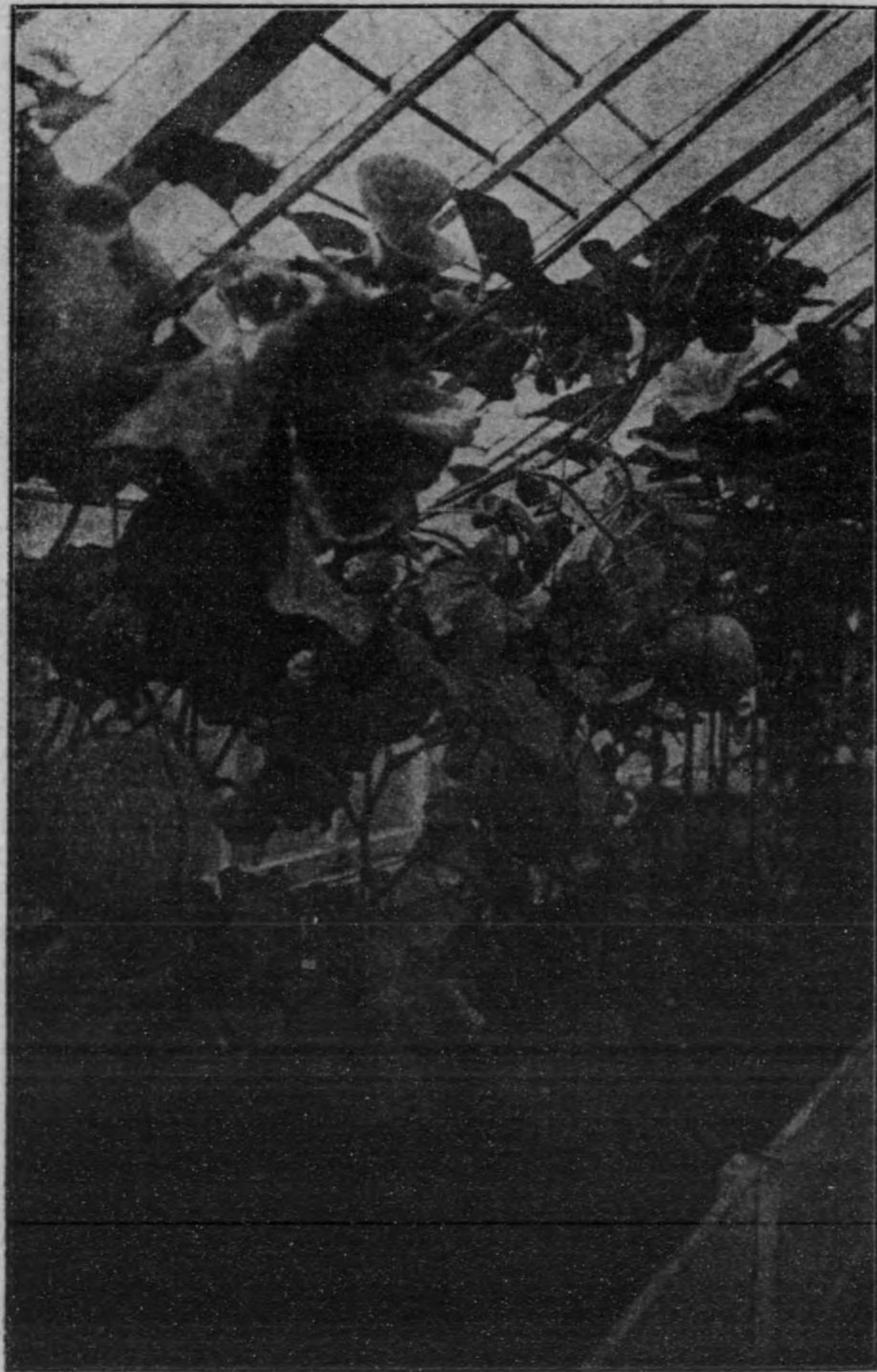
明石人丸山の寓所に於て 著者識す

實 驗  
メ ロ ン 栽 培 法

目 次

第一章	來 歴	(一 頁)
第二章	性 狀	(二 頁)
第三章	風 土	(三 頁)
第四章	品 種	(五 頁)
第五章	種 子	(二三 頁)
第六章	露地栽培	(二四 頁)
第一節	下 種	(二六 頁)
第二節	栽培法	(二七 頁)
第七章	木框栽培法	(三〇 頁)
第一節	木框の構造及据付け方	(三〇 頁)
第二節	下 種	(三二 頁)
第三節	苗の仕立方	(三四 頁)

培栽ンロメの内室温便輕



(目次終)

第八章	第四節	栽培法	.....	(三五頁)
		室内栽培法	.....	(三六頁)
	第一節	温室及ビツトの構造	.....	(三七頁)
	第二節	室内の消毒	.....	(三九頁)
	第三節	下の種	.....	(四〇頁)
	第四節	苗の仕立方	.....	(四一頁)
	第五節	植付	.....	(四二頁)
	第六節	誘引及剪枝法	.....	(四三頁)
	第七節	花粉の交配	.....	(四五頁)
	第八節	網掛け	.....	(四六頁)
	第九節	肥料	.....	(四六頁)
	第十節	灌水及撒水	.....	(四七頁)
	第十一節	通風と受光	.....	(四八頁)
第九章		收穫貯蔵并に食ひ方	.....	(四八頁)
第十章		病虫害	.....	(四九頁)

培栽ンロメの内室温便輕



(目次終)

第八章	第四節	栽培法……………	(三五頁)
		室内栽培法……………	(三六頁)
	第一節	温室及ビットの構造……………	(三七頁)
	第二節	室内の消毒……………	(三九頁)
	第三節	下の種……………	(四〇頁)
	第四節	苗の仕立方……………	(四一頁)
	第五節	植付……………	(四二頁)
	第六節	誘引及剪枝法……………	(四三頁)
	第七節	花粉の交配……………	(四五頁)
	第八節	網掛け……………	(四六頁)
	第九節	肥料……………	(四六頁)
	第十節	灌水及撒水……………	(四七頁)
	第十一節	通風と受光……………	(四八頁)
第九章		收穫貯藏并に食ひ方……………	(四八頁)
第十章		病虫害……………	(四九頁)

培 栽 地 露 の シ ロ メ



驗實  
メロン栽培法

農學士 井田鑒吉校閱

千原清著

第一章 來 歴

多くの學者の説によるに、メロンはもともと熱帯亞細亞から出たもので、印度はその原産地であらうといふことである。この地から東西に向つて廣つたもの、如く、歐羅巴に入つたのは西暦の初めで、最初はアルメニアに入り、次で羅馬に傳はり、千四百九十五年に至つて佛蘭西に入り、佛國より西班牙に傳はり、西班牙から英國に渡つたといふことである。現今には殆ど全歐に分布して居る。此中英、佛は高等栽培が盛んに行はれ、其他の各國では、何れも主として露地に栽培されて居るが、就地中海沿岸の諸邦は露地栽培が盛んである、然し其果實の品質は、到庭露地のものは高等栽培のものに及ばない。殊に英國の室内栽培種は、最も進歩せるものにして

其形狀、色澤、品味等、總ての點に於て世界に卓絶して居る。米國に傳播した時代は不明であるが、今より三十年前にありては、其栽培南部地方及東部の大都會附近に限られて居つたといふことである。其時代には品種も僅か六種に過なかつたといふ。然るに米國は風土がよく適合し、栽培容易なるが爲め年々非常なる勢ひを以て栽培面積増加し、茲十數年間に莫大なる生産額に達し、今や重要な作物の一として擧げられんとするに至つた。栽培、品種に於ても幾多の改良が行はれ、露地栽培の品種は最も米國が豊富である。我國へ傳はつたのも、何日頃であるか、これ又よく分らないが、多分明治初年頃なるべく、福羽子爵は明治八九年頃より

培 栽 地 露 の シ ロ メ



驗實メロン栽培法

農學士 井田 鑒吉 校閱

千原 清 著

第一章 來 歴

多くの學者の説によると、メロンはもともと熱帯亞細亞から出たもので、印度はその原産地であらうといふことである。この地から東西に向つて廣つたもの、如く、歐羅巴に入つたのは西暦の初めで、最初はアルメニアに入り、次で羅馬に傳はり、千四百九十五年に至つて佛蘭西に入り、佛國より西班牙に傳はり、西班牙から英國に渡つたといふことである。現今には殆ど全歐に分布して居る。此中英、佛は高等栽培が盛んに行はれ、其他の各國では、何れも主として露地に栽培されて居るが、就地中海沿岸の諸邦は露地栽培が盛んである、然し其果實の品質は、到庭露地のものは高等栽培のものに及ばない。殊に英國の室内栽培種は、最も進歩せるものにして

其形狀、色澤、品味等、總ての點に於て世界に卓絶して居る。米國に傳播した時代は不明であるが、今より三十年前にありては、其栽培南部地方及東部の大都會附近に限られて居つたといふこと、其時代には品種も僅か六種に過なかつたといふ。然るに米國は風土がよく適合し、栽培容易なるが爲め年々非常なる勢ひを以て栽培面積増加し、茲十數年間に莫大なる生産額に達し、今や重要な作物の一として擧げられんとするに至つた。栽培、品種に於ても幾多の改良が行はれ、露地栽培の品種は最も米國が豊富である。我國へ傳はつたのも、何日頃であるか、これ又よく分らないが、多分明治初年頃なるべく、福羽子爵は明治八九年頃より



歐米の品種を栽培せられて居るこいふことである、我國に於ては何れも最初、風土を選ばず無頓着に露地に栽培を試みられたるがため、優良なる英佛の室内栽培種は、満足なる生育結果をなさず、米國種はよく結果せしも品質充分ならず、一時はメロンに對し、多くの注意を拂はれざるに至つたが、其後英國種は室内栽培を行ふに及び成功し、進んで木框栽培に良果を收むるの域に達し、今や露地栽培に於て好結果を來さんとするに至つた。米國種は明治四十四年大浦子爵が農商務

### 第二章 性

メロンといふのは甜瓜の英名で、葫蘆科に屬する一年生蔓性草木である。學名をククミスメロン稱し、Cucumis Melo、我國在來甜瓜も無論この内に含まれて居るが、本書に説くメロンは、從來我國にて用ひて居る通り、外國種にのみ適用する呼唱で、日本種及日本種支那種は含まないから、以下誤解なき様望む。米國にてはマスクメロン Musk Melonといふて居るが、英國のマスクメロン、即ちキューカーピタ、モスチャタ Cucurbita Moschata、邦名キントウグワミ異種たるは勿論、又

大臣たりし際、米國視察の節この國の種子を持ち歸りて、全國に配付されたるに刺激せられ、その後再び栽培するもの諸處に起り、岡山、兵庫の一部に於てはこれ又良果を産するに至つた。今後更に研究の歩を進めば、各地に於て優良果を容易に生産し得るに至るであらう。

### 狀

單にメロンと稱するも、ウォーター、メロン、Water Melon、即ち西瓜と混同すべからざるは明かなる處である。形態は在來甜瓜と大差なきものと思ふて差支ない。即ち莖葉共に稍や粗剛にして、莖には卷鬚を有し、葉は圓形に近く心臟形或は腎臟形をなすものもあり、裂目は淺きが普通である。又室内栽培種は、露地栽培のものに比し莖葉がたくて大きい、何れもよく分枝するの性あり、結果は孫枝に於てするが常である。花は黄色にして其構造胡瓜に似るも、胡瓜より形が小さく、

雌雄異花である。果實の形狀は球形、楕圓、扁圓、尖圓等一定せず。色澤は白、黄、白黄、綠、黄綠等種々あり。食用に供すべき部分は果皮の内部にして、綠色、赤色、白色等を呈し中央に種子を藏へて居る。果實一個の重量は、輕きは四十五匁重きは一貫五百匁に達するも、普通は二百匁乃至五百匁の間である。果肉は多漿、柔軟、甜味にして風味頗る佳良なる上、高き芳香を有するが故に、歐米先進國に於ては一般に好愛せられ、殊に英佛に於ては高貴の食卓には無てはならぬものこせられて居るこいふ。我國にありては何分にも新しい果物であるがため、メロンに對し深き嗜好を持つて居るものは、一流社會の外比較的只今の處では少いが、年々歐米よりの歸來者により、メロンの優秀なることを頻に吹聴せらるるに共に

### 第三章 風

温度 前述べた通り熱帯地方の原産であるから、低温では生育しない。七八十度が適温で、高温には百二十度にも平氣であるが、あまり温度が高いと結果が宜しくない、七八十度平均の温度なれば、嚴寒の候も容易

### 土

一方國內に於て優良果が生産し得る、様になつたから、今後益嗜好者が増加すること、信する。往々メロンを味はつて其味が評判程にないのを非難する人があるが、其は必ず下等な品種か、栽培當を得なかつた不良果をか食つたので、眞の味が分らなかつたのであらう。尙又他の一原因は、メロンに慣れないがために、其味を了解し得ないのではあるまいかと思われる。これは丁度トマトやキャベツを初めて食つた時は、あまり甘いとも思はなかつた日本人が、食ひ慣る、に従つて嗜好するに至つたと同様で、數々メロンを味はふときは、遂に其の味に化せられて求めて止まざるに至るであらう。又實際に於て在來甜瓜は、メロンと同日に論すべきものでない。

十度内外の上位にあらしめるものにして居る。されば露地に於ても、あまり早く下種するに失敗を招き易い。

### 濕氣

メロンは又高温と共に乾燥せる氣候を好むもの病害に侵され易い。我國にて上等の品種が、露地に栽培し難いのは、全く四面海で、空氣に濕氣を含んで居ることが多い上に、降雨量が少くないからである。此點は一才歐洲種の葡萄に似て居る。それで優良種は、木框や温室内に作つて、濕氣を防ぐ必要があるのである。同一の品種でも木框に作つたものが、温室栽培のものに及ばないのは、この理屈からであらうと思ふ。

然し良種には氣候が適しないといふて、何日まで温室や木框で作つて、費用の高まつたメロンに高價を拂ふ様では、(肉質の價値以外)に富者には兎も角、貧者には未來永劫之味はふことが出来なわけである。余は何日までも現在の様に貴族的の作物として満足しない、是非これを一般人の口に容易に入り得る程度に、早く平民化せしめたいと思ふ。幸に英國の室内種を露地に栽培して、好結果を得るに至つた地

方も出来て来たのであるから、余は此際大いに耕種法に意を加へ、各地に試作せられんことを望む者である。成程我國は濕氣が多いには相違ないが、何處も彼處もさういふわけでない山形縣の一部に歐洲種の葡萄が立派に出来る様に、メロンも露地で容易に良質のものを作り得らるゝ處が多いに相違ない、殊に岡山、香川、山梨縣などには、其生育季中の降雨量から見て、さういふ土地が時に多からうと思はれる。

### 日光

栽培のものは、七八月頃正午の直射は避けしむるが生育上得策で、其他は萎れない範圍に於て、成可く長時間受光せしむるがよい。此場合空氣の流通に注意すべきは勿論である。

### 耕土

露地栽培にあつては肥沃なる砂質壤土、或は壤質砂土の排水よき地を選ぶべく、粘質の土質に於ては其熟季後、のみならず、品質遙に劣るを免れない。木框や室内栽培にあつては、池の泥土に牛馬糞を等量に半ヶ年以上一ヶ年位堆積して、兩三日切り返してよく腐熟混和せしめたるものに、使用一二ヶ月前、骨粉、油粕、鯨粕人

糞尿等の何れかを混じ、尙過磷酸石灰の少量を加へて置いたものを、一寸目の篩でざつこ通して用ふるのである。細く篩つたものはよろしくない。場合によつては篩はないでも一向差支ない。尙耕土中に、天理農法にて唱道する。燻炭少し許りを混するこは、草勢の健全を計る上に於て最も有効にして、これを用ひたものは常に莖葉濃緑にして強剛、頗る顯著なる効果がある。斯く早くから耕土を造つて置くだけは、土

## 第四章 品 種

メロンを大別して、網皮種及平滑種の二にすは、我國從來の例で、現今歐米に於て栽培せられて居る多くの品種は、主としてこの二種族に屬して居る處から、便宜上こう分けたのであらうが、實際は左記の如く色々あるのである。

一、レテイクユラタス(Reticulatus)

英名をネットメロン(Netted Melon)とか、ネット、メダ(Names)とか言われて居るもので、我國にて網皮種といふのは、英名を直譯したのである。果皮はカンタルーペンシスに比すれば少しく薄い。又本種の殆ど總ては果皮一面に白色の

### 種

網目があるが常である。(網條なくして平滑のものも全くないではないが、これは極稀なり)。英國の優良種の多くはこれに屬して居る。彼のエマールドゼムはこの種の代表的品種である。

二、カンタルーペンシス(Cantaloupeensis)

普通カンタルーペンシス(Cantaloupe)と稱するものであつて、果皮は前者に比すれば粗剛にして且つ瘤起がある。又深き縦溝のあるものが多い、この名は昔古ローマに近きカンタルーペンシス(Cantalupe)に於て、この種のメロンが久しく栽培せられて居つた

こいふ處から生じたのであるが、(カントルビへはアルメニアから傳はつたこいふ事なり)このカントルビこいふ言葉はマスクメロンこいふ意味にも用ひられ、又この種族は他の種族との間に、自然並に人工的雜種が澤山出来た、ゆゑ、他種族との間に判然たる區別のないものなごあつて、類別上頗る面倒である。現に米國でカントルビとして、栽培されて居るもの、多くは、レタイキュラス系統のものであると言はれて居る。この種の特徴は果皮が堅く粗糙であるこいふ點で我國にて平滑種と呼ぶは、この種を指すのである。

二、フレクシユオサス (Flexuosus)

スネークメロン (Snake Melon)、スネーク、キューカンバー (Snake Cucumber) ならひ種族で、果は細長くして色々に曲つて居る。よく發育したものは、長さ二呎乃至三呎、横徑三吋位に達するこいふ事である。其味は可良ならず、往々砂糖漬として用ひられる位のものである。

四、チト (Chito)

オレンジ、メロン (Orange Melon)、メロン、マツプル (Melon Apple)、ガーデン、メロン (Garden Melon)、マジテール、オレンジ

(Vegetable Orange) な澤山な名稱がある、名に示す如く果は小形にして甜橙に似、果皮は黄色を呈して居る。

五、イノドラス (Inodorous)

一二に比し葉色淡くとも毛茸は一層深い。本種は完全に貯藏せば、品質を損するこもなくして、冬季までよく貯藏するこが出来る。英米では多く作られて居ないが、地中海に面する諸國に於ては廣く栽培せられ、英國の市場に販出さる、類は少くないこである。この一種にウヰンター、メロン (Winter Melon) といふのがある。白肉種中の最大果で長楕圓形をなし、稀には球形に近いものもある。果皮は平滑又は微に網條を生じ、果色は暗緑色から白又は黄に變る。果肉は厚いが品質は極上等とはいへない。これも歐洲南部の各國に於て多く栽培(露地)されて居る。

上記の外ヘルシヤや印度産のメロン、並に亞弗利加原産だと言はれて居るもの、及び其他一、二種あるが、何れも植物學上種族名が分らないから、態を省略することにした。

以上の如く植物學上の種族として、果ぐべきもの二三にして止まらざる上、これ等の各種族は何れも幾多の栽培變種を

生じ、其品種数は頗る多数に上つて居るが、現今歐米に於ける著名の品種は、レタイキュラスがカントルビペンシスに屬するものであつて、他の種族には良品が乏しいから、以下説く處も勢ひこの二者に屬する品種の多くを述べるこにな

る。然るにこの兩者間は勿論、他種族との間に、自然及人工的に年々新品種が出来るから、種族の何れに屬する哉區別し難い品種が尠くない。従つて植物學上の區別によつて、品種を分類して述べるこいふことは、實際に於て不可能である。

されば茲には栽培の便宜上、英米の二つに分けて述べるこにする。英國種の殆ど總ては、室内に於て栽培せらる、處のものであつて、その外觀、品質共に冠絶して居る。我國に於ては氣候及土質に注意すれば、露地に於ても栽培は必ずしも不可能でない、米國は殆ど露地に栽培して居る。従つて露地用メロンの品種に富で居る、我國に於ては此國の強健種ならば何處にでも容易に栽培するこが出来ようと思ふ。

英國種

(1) アンバーウッド、ビューティ (Amber wood Beauty) 綠肉種

(2) パーチット、ヒル、フエボリット、(Barnet Hill Paucitate) 熟して黄金色を呈し、美しく網條を生ず、品質上等の豐産種にして、性、強健なり。

(3) ビーティ、オブ、サイオン (Beauty of Syon) 中果にして殆ど圓形をなす、熟して美しき黄金色を呈する網皮種なり。赤肉種にして品質悪しからず、早熟の豐産種とす。

(4) ベスト、オブ、オール (Best of All) 大果にして八百匁を越ゆるこもあり、圓形又は稍や、楕圓形をなす。果皮は淡緑白色にして熟するも變化なし。網條は規則正しくして細し。綠肉種にして果肉厚く、味甚だ佳良なる上香氣高し。

(5) ブレネム、オレンジ (Blenheim Orange) 中又は大果にして、楕圓形をなし肩少しく細る、網條は細し、果皮は綠白色を呈し、熟季に近づくと従ひ白色の度を加ふ。品質優良なる赤肉種にして、草勢中等豐産なり。

(6) ブリテイシユ、クヰーン (British Queen) 綠肉種にして、英國にては蒸熟物なき木櫃に於いて、容易に

栽培せらるるこの事なれば我國にありても栽培容易なるべし。

(7) ブルス、アイディアル(Bull's Head) 中形類にして網條美し。熟して黄色を呈す。肉は厚くして淡黄色をなし、多漿にして香味共に佳良なり。

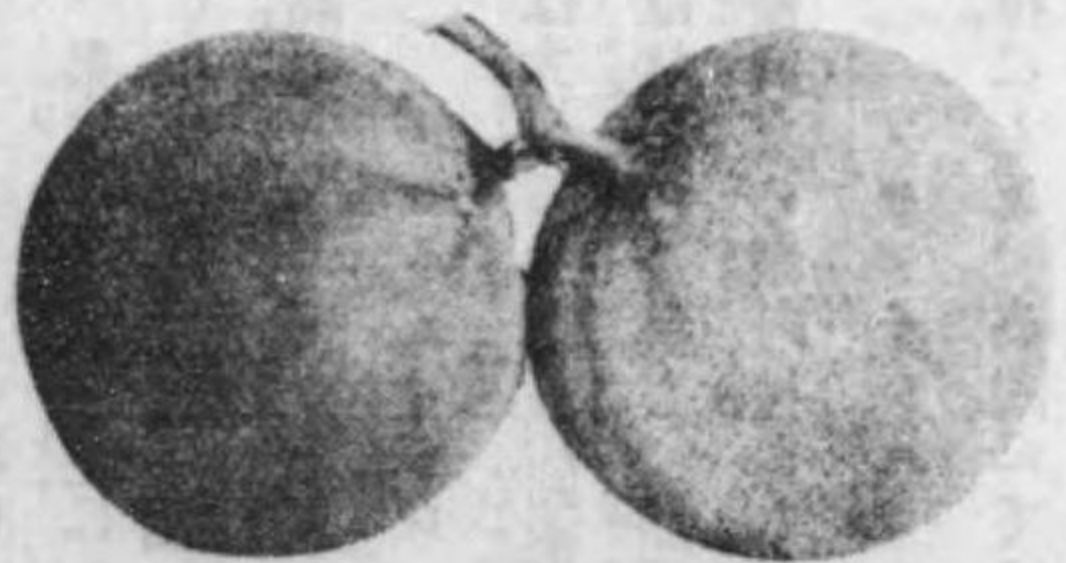
(8) ブルス、レナウン(Bull's Renown) や、大形にして楕圓形をなす。網條多からず。赤肉種にして果肉厚し。

(9) カシユミア(Cashmere) 中又は大果にして楕圓形なり。果皮は薄く、熟して黄色を呈し。網條多からず。品質優良なる白肉種なり。英國にて古き品種の一とす。

(10) コルストン・バセット、シードリング(Colston Basset Seeding) 稍や楕圓をなし、果皮は黄色にして網條美し、品質良好なる白肉種なり。

(11) ダッチエズ、オブ、ヨーク(Duchess of York) 果肉厚き白肉種なり。

トツリホエフ、スルーア (Earl's Favourite)



(12) アールス、フェボリット(Earl's Favourite) 重量五百匁内外にして網條美し。緑肉種にして果皮厚く品質佳良なり。本種は英國にて主として木框に栽培せらる、豊産種なり。

(13) イーストナークスル(Eastnor Castle) 中又は大果にして三百五十匁乃至五百匁あり。網條美しく果皮は淡黄白色を呈す、緑肉種にして果肉厚く、品質優良なり草勢強く豊産なり。雖も久しく貯藏し能はざるの缺點あり。

(14) エマールルド、ゼム(Emerald Gem) (21の挿畫参照) 圓形の大果にして、往々一貫二三百匁に達する事あり、果肉は淡綠色にして、網條白く細くして頗る美し。果肉は綠色を呈し、品質特に佳良なり。草勢強く着果又悪からず。我國に於ても温室及木框に於て常に好成绩を得、本種はリングリダーミサットンス、パーフェクションズの雜種なりといふ。

ユシツリゲンイ (English)



(15) イングリツシユ(English) 大果楕圓形をなす。網條細くして全面に洽く、幼時は淡灰綠色を呈するも、熟すれば黄色になり頗る見事なり。香氣肉質共に佳良、性強健豊産にして甚だ栽培し易く、又容易に大形の果を生産する事を得べし。

(16) エピキユア(Epique) 中果、よく生育する緑肉種にして、品質佳良なり。

(17) エクスクイジト(Exquisite) 緑肉種にして肉甚だ厚く、果皮は薄し、品味上等なり。

(18) エキストラ、コーリテイ、ナットメグ (Extra Quality Nutmeg) 楕圓、甚だ大形にして一貫匁に達するこも稀ならず。幼時は果皮濃綠色を呈するも、完熟するときは黄色となる。果の全面に網條を細く生じ、外觀頗る立派なり。白肉にして香味又

△セ、ドルラーマエ (Emerald Gem)



品味佳良なり。

甚だ可なり。草勢強く結果良好なる優良種にして、大栽培に適す。

(19) フログモア、オレンジ(Frogmor Orange) 赤肉種にして品質佳良、草勢強健豊産なり。

(20) フログモア、スカレット(Frogmor Scarlet) 楕圓形の大果、網條細く、熟して白地に少しく黄を帯ぶ。赤肉種にして肉厚く、品質上等なり。本種は特に草勢強し。

(21) ジルバーツ、グリーン、フレツシユ(Gilbert's Green-Flushed) 大果にして楕圓形をなす。品質上等の緑肉種なり。

(22) ゴールデン、カム(Golden Gem) 圓形、果皮は黄色にして網條あり、肉は淡綠色を呈し

(23) ゴールデン、パーフェクション (Golden Perfection) 緑肉種

(24) ゴールデン、ク井ーン (Golden Queen) 中果にして圓し。果皮は美しく網條を生じ、熟して黄金色をなす。皮薄く、多漿甘味上品なり。草勢強し。

(25) ガントン、スカレット (Ganton Scarlet) 中果にしてや、楕圓形をなす。網條は粗なり。果皮は緑色、熟するときは少しく黄色を帯ぶ。赤肉種にして肉は厚く、品味甚だ可なり。

アオーロ、ヒーグンキツロ (Hero of Lockinge)



(26) ヒーロー、オブ、ロッキング (Hero of Lockinge) 中果にして三百匁より五百匁に達す。形圓く時に扁圓又は楕圓をなす。網條は粗なり。生育中は淡灰緑色を呈するも熟すれば黄色となる。白肉種にして品質優良なり。本種は英國にて古くより栽培せらる、處の最も普通なる早熟種にして彼の國にありては、温室、ビットは勿論、蒸熱物なき木框に於ても、よく生育結果するが故に、大栽培用として採用せらる。

る。されど吾人の経験によれば、莖葉少しく繊弱の傾きあり結果歩合又最も優れりといふべからずして、英國に於けるが如く好成绩を得ず。雖も、優良種の一として數ふる事を得。

(27) ハイ、クロス、ハイブリッド (High Cross Hybrid) 果は長楕圓形にして網條あり、肉は白色香味佳良なり。

(28) インゼスター、ハイブリッド (Ingester Hybrid) 白肉種

(29) インビクタ (Invicta) 大果にして楕圓形をなすも、時に正圓のものあり。網條細し果皮緑色にして成熟せるときは少しく黄味を帯ぶ。草勢強き赤肉の優良種なり。

(30) インビンシブル (Invincible) 圓形果にして網條美しく現われ、熟して黄赤色となる。肉は厚く香味佳良なる赤肉種なり。豊産性の優良種也。

(31) レイト、パーフェクション (Late Perfection) 大果、網條美しくして美事なり。熟して鈍き黄褐色を呈する赤肉種にして、品質優良なり。

(32) リッパ、ヒース (Ripple Heath) 赤肉の大果にして品質又悪からず。

(33) ロングレット、パーフェクション (Longlet Perfection) 白肉種にして最も古き品種中の優良種なり。

(34) ミッドレックス、ヒーロー (Midsex Hero) 中果にして圓形なり。網條は細かく、果皮は緑色にして成熟するも變化なし。緑肉にして厚く品質佳良なる豊産種なり。

(35) モナーク (Monarch) 果は楕圓形をなす。肉は緑色にして厚く、品質佳良なる一流の品種也。

(36) ニ、プルス、アルトラ (No Plus Ultra) 白肉種にして肉厚く品質甚だ上等なる上性強健よく生育す

(37) オスバートン (Osberton) 緑肉種にして品質優良なり。果面には美しく網條を生ず。

(38) ク井ーン、エンマ (Queen Emma) 大果にして果皮薄く、肉質柔軟甘味多し。草勢強健にしてよく結果す。

(39) リーズ、スカレット、フレッシュ (Reads Scarlet Flesh) 中果にして楕圓形をなす。網條美しき赤肉種にして、肉しまり品質悪からず。本種は最も古き品種の一也。

(40) リングリーダー (Ring leader) 大形果にして楕圓形をなす。外皮は淡緑色にして熟するもさして變化なく、たゞ少しく黄色の度を加ふのみ、網條細かくれども、果の全面に裕からずして、一部分網目を生ぜざるを常とす。而して皮果淡黄緑色を呈するが故に、網條は目立たず。果肉は緑色にして厚く。香味共に悪からず。草勢強く結果良好なれば英國にては多く木框に栽培せらる。吾國に於ても性強健豊産にして、よく大形の美事なる果を結ばしむる事を得べし。但し英國にては早熟なりといふも、本邦にては寧ろ晩熟なり。

(41) ロイヤル、フェボリット (Royal Favourite) 正圓形にして、美しく細かき網條を生じ頗る見事なり。外皮は淡緑色を呈す。果肉は甚だ厚くして白色、風味頗る可なり。草勢強く結果多し。本種の特徴は、果梗極めて短く、結果枝に殆ど密着するにあり。

(42) ロイヤル、サバリン (Royal Sovereign) 白肉種

(43) ロイヤルティ (Royalty) 緑肉種

(44) スカレット、ゼム (Scarlet Gem)

殆ど圓形、美しく果面に網條を生ず。赤肉にして品質上等の  
豊産種なり。

(45) スカレット、プリミア(Scarlet Premier)  
楕圓形、網條美し、赤肉にして厚く、よく緊り香氣高し。

(46) サットンズ、エー、ワン(Sutton's AI)

パイテラバエシ、ストツサ  
(Sutton's Superlative)



大形果にして球状をなす。網條細かく外観見事なる赤肉種のメロンなり。肉厚くして芳香高く甘味多き優良品也。草勢

強くよく木框にて生育す。

(47) サットンズ、エムプレス(Sutton's Empress)

圓形にして網條は細かく美し、外皮淡綠色を呈するも、熟すれば黄赤色となる。肉厚く香味可良なる、豊産性赤肉種の良品なり。

(48) サットンズ、キング、ジョルジ(Sutton's King George)  
大果にして六百匁より一貫匁に及ぶ。形楕圓をなし、全面細密なる網條を以て飾られ、熟して黄赤色を呈し頗る見事なり。肉厚くして黄金色をなし、香味共に優良なり。本種はサットン商會が、千九百十三年に初めて賣出したる新種なれば、余は未だ一回より其栽培を行はず。されば今茲に其可否を斷言するは、少しく穩當を缺くも、其生育状態、結果歩合、及び品質優良なる點より考ふるに、其優良種たるに疑を挿むの餘地なきもの三信す。

(49) サットンズ、オープン、エアー、グリーンフレッシュ(Sutton's Open Air Green-fleshed)

(50) サットンズ、オープン、エアー、スカレット、フ

ラント(Sutton's Open Air Scarlet-fleshed)

この二者は名の示す如く、露地にて充分生育結果する品種なり。其品質の他に劣るべきは勿論免るべからざる處なり也

(51) サットンズ、パリス、フエボリット、カンタループ(Sutton's Paris Favourite Cantaloupe)

本種は佛のカンタループ系統のメロンにして、木框及び露地

に生育結果す。其品質の他の室内種に及ばざるは明かなり。

(52) サットンズ、パーフェクション(Sutton's Perfection)

多くの點に於て赤肉種シュバラタイプに酷似するも、本種は綠肉種たるの相違あり。草勢強健にしてよく結果す。

(53) サットンズ、ロイヤル、ジュビリー

(Sutton's Royal Jubilee)

大形にして楕圓、六七百匁に達するこ稀ならず。外皮殆ど白色にして成熟するも變化少し。網條中位。綠肉種にして皮厚く、香味峻烈甘味最も多し。草勢強。木框にて生育結果する多産種なり。本種は英のロイヤルガーデンに於て育成せられたるものにして、綠肉種中の優等品なり。大正三年京阪神メロン研究會に於て、最も好評を博したるは、余が出品したる本種なり也。

(54) サットンズ、スカレット(Sutton's Scarlet)

大果にして、五六百匁に達するものあり。形圓くして網條は細かし。熟するときは果皮美しく黄色を呈し甚だ見事なり。品質上等の赤肉種にして、よく生育し結果又悪からざる良種なり。

ルスカ、ルーザン井ウ、ストツサ  
(Sutton's Windsor Castle)



(55) サットンズ、シュバラタイプ(Sutton's Superlative)

大果にして殆ど圓形をなす。網條細くして全面に裕く外観よく

(46) 挿畫参照  
品位上等、草勢強く莖の節間短し。

(56) サットンズ、ユニバーサル(Sutton's Universal)

大形にして大なるは一貫匁に達するものあり。形楕圓にして網條粗なるも、外皮黄色を呈し見事なり。肉甚だ厚く、香味極めて佳良なる白肉の良種なり。草性特に強く結果

(57) サントンス、ウ井ンゾール、カスル

(Sutton's Windsor Castle) (55 挿畫参照)

楕圓形なり。網條は中位にして濃緑の地に美しく現はる。肉厚くして淡綠色を呈し品質上等なり。

(58) サイオン、バーフェクション (Styon Perfection)

中形果にして果皮甚だ薄く、熟して綠黄色を呈し、美しき網條を以て飾らる。赤肉種にして肉厚く風味佳良なり。

(59) ザ、カウンテス (The Countess)

大果にして圓形肩怒る。網條粗なり。生育中は綠色なるも熟するときは純黄色を呈し頗る美し。品質優良なる白肉種なり。

(60) トライアンプ (Triumph)

楕圓形の大果にして大なるは六七百匁以上に達す。赤肉種なるも往々緑肉の果を生ずることあり。肉厚くして香味可良草勢強健豊産なる晩熟の優良種也。

(61) ビーチス、エミネンス (Veitch's Eminence)

楕圓形の大果にして網條細かく、顆皮綠色なるも、熟するときは淡黄色に成る。肉厚く白色にして少しく黄色を帯ぶ。香味共に可良なり。草勢強く豊産なる上、熟季早きを以て廣く栽培せらる。

栽培せらる。

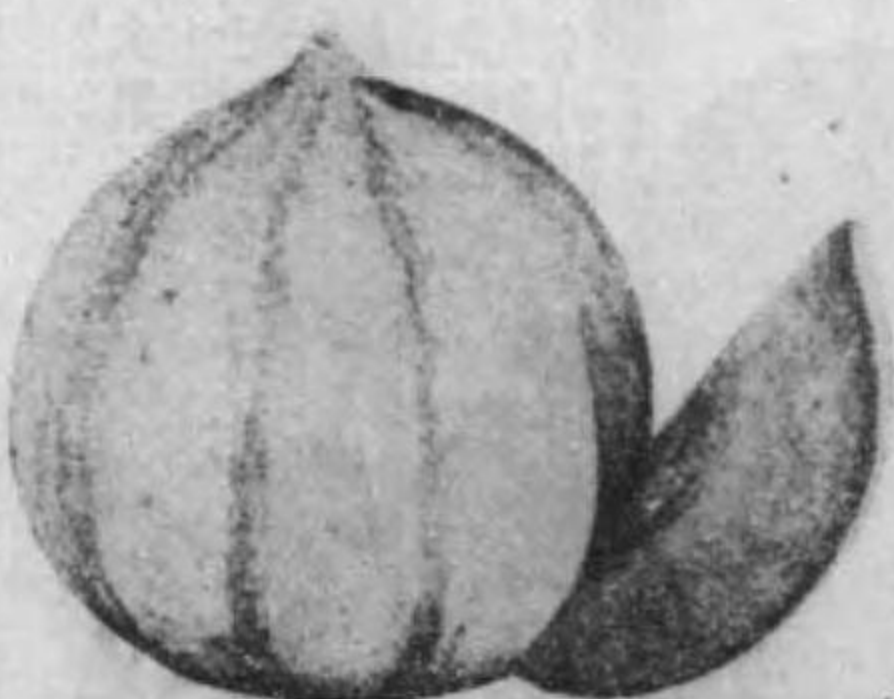
アミリプ、スチービ (Veitch's Premier)



拾し。肉厚く綠色を呈し、風味甚だ可なり。

(62) ビーチス、プリミア (Veitch's Premier)

ルフイテンウバ、スチービ (Veitch's Pountifu)



は中形にして圓し 縦に數條の深き溝を有し、外形は全くカ

草勢強きカントール種に、レタイキユラタスの上品なる味を持つんが爲めに、アールス、フェボリット、パリジアンカントール (Parisian Cantaloupe) の交配を行ふて出来たる品種なり。果は小又

ンタループなり。赤肉種にして品質頗るよし。草勢強ければ我國にては容易に露地に栽培する事を得べし。

(64) ビクトリー、オブ、バズ (Victory of Bath)

大果稍や楕圓形をなす。網條多からず。果皮は綠に黃を帯ぶ綠肉種にして品味上等、草勢中位なり。

(65) ウ井リヤム、チイララー (William Tillery)

大果にして外觀見事なり。果皮は暗綠色にして薄し。果肉は綠色、品質上等、本種は世人熟知の優良種なり。

### 米 國 種

(1) アクミ、(Acme)

一名アミリー、ホルティモア (Early Baltimore) の如し。中果にして長楕圓形をなし、果梗部稍や尖る。縦溝深く網條あり。熟するときは外皮黄金色を呈す。果肉は綠色にして厚く、品味甚だ可なり。本種は果形よく揃ふの特徴あり。

(2) アドミラル、トローユー (Admiral Togo)

中形果にして肉厚く、種子部小なり。果肉は橙黄色を呈し、

品質上等なり。

(3) アーリングトン、ナットメグ (Arlington Nuts)

其品質優良なるを以て、ポストン市場にて好評を博せる綠肉の早熟種なり。

(4) ホルティモア、マーケット (Baltimore Market)

楕圓形にして中果、果肉は橙黄色にして品質優良なり。

(5) バナナ (Banana)

本種は果形細長く大なり。熟するときは芭蕉に似たる香氣を發するが故にこの名を得たり。果肉は鮮肉色にして厚し。

(6) バンクエット (Banquet)

中形果にして網條美しく、果肉は淡黄色を呈し、品質頗る可良なり。

(7) ベー、ビュー (Bay View)

偉大なる楕圓果なり。縦溝深く、網條あり。果肉は淡綠色にして品味優良、晩熟種なり。

(8) バレルズ、ゼム (Barrell's Zenn)

一名デイフェンダー (Defender) の如し。楕圓形にして中果三百匁内外なり。果肉は赤味ある橙黄色を呈し、香氣高く品質

上等、尚肉質緊るが故によく輸送に耐ふ。本種は特に草勢強く豊産なれば、他の品種よりは少しく株間を廣くすべし。

(9) カサーバ(Cassaba)  
大形果にして緑肉、品質佳良なり。

(10) チャンピオン、マーケット(Champion Market)  
ネットトゼムによく似るも、本種はより以上に大形なり。果はや、長味を帯び、果形よく揃ふ。果皮には細かき網條を生ず。緑肉種にして内部厚く、品質上等、輸送に耐ふる早熟種なり。

(11) ブツシユ、メロン(Bush Melon)  
小形果なるも其品質甚だよろしく、緑肉種中の優良種と稱せらる。ゼニリンドに彷彿たる風味あり。本種は他の品種と著しく草性を異にし、叢生して堅立するの性あり。頗る強健なり。常に甚だしく多産なれば、結果の半は摘除するを要す。

(12) コズモポリタン(Cosmopolitan)  
佛のカンタループに似たる品種にして、楕圓形をなし縦溝を缺く。外皮は淡綠色なるも、熟するときは銀色を帯ぶる灰色

を呈し、全面細かき網條にて飾らる、緑肉種なり。

(13) アーリー、クリスチアナ(Early Christiana)  
黄肉種、多漿品位上等なり。

(14) アーリー、シトロン(Early Citron)  
果は圓形にして中位。網條少し。果皮は綠色。果肉は淡綠色にして香氣高く上品なり。甚だ早生にして極めて多産なり。

(15) アーリー、ハツケンサツク(Early Hac kensack)  
扁圓形の大果にして六七百匁あり。縦溝深く網條細密なり。果肉は極めて厚くして網條を呈し、品位上等なり。本種は有名なるハツケンサツク種中より先年選出せられたるものにして、熟季早く(ハツケンサツクより十日ばかり早し)極く早生種に次で市場に販出するこを得。最も栽培に適する良種なり。

(16) エマールド、ゼム(Emerald Gem)  
圓形の小果にして、果皮薄くして暗綠色を呈し、網條少くして平滑なり。肉は厚く橙黄色にして、品質極めて上等、草勢強健豊産の早熟種にして、又輸送に耐ふ。本種は露地用品種なるも、又米國に於ては室内栽培せらる、事あり。露地メロ

ンにして、室内に栽培して好結果を得るは、本種あるのみミす。

(17) ホードフック(Fordhook)  
小にして圓形少しく扁し、網條は粗、外皮の色は綠色なり肉は厚く橙黄色を呈し、肉質緊り高貴なる品味を有す。

(18) グランド、ラピッズ(Grand Rapids)  
極めて早熟なり。網條美しく、果肉は黄色、良種の一として數へらる。

(19) ガーデン、レモン(Garden Lemon)

一名レモン、キューカンバー(Lemon Cucumber)といふ。果は殆ど圓形、外皮は黄色の地に綠色の斑紋ありて平滑なり。肉は甚だ軟くレモンの如き香味を有す。本種は料理用として主として用ひらる。

(20) ゴールデン、ゼニー(Golden Jenny)

小形にして極めて早熟の品種なり。輸送に適す。ゼニリンドの改良せられたるものなりといふ。

(21) ゴールド、ラインド、ロッキー、フォード  
(Gold Lined Rocky Ford)

本種はロッキー、フォードの改良新種にして、果は楕圓形にしてよく揃ひ、縦溝なく網條細密なり。肉厚く綠色なるも、中央に趣くに從ひ黄色を呈す。品質優良なり。

(22) ハツケンサツク(Hac kensack)  
一名タークス、キャップ(Turks Cap)といふ。果形大にして圓形や、扁し。縦溝あり熟して少しく黄色を帯ぶ。網條細かく緑肉にして食味甚だ可なり。本種は古き最も普通なる品種にして、廣く各地に栽培せらる。

(23) ヘンダーソンス、ニューポート(Henderson's Newport)  
圓形の中果にして、外皮は鈍き綠色をなし、熟して黄色を呈す。果肉は綠色にして緻密、豊産の早熟種なり。

(24) ヘンダーソンス、スウィート、ミート  
(Henderson's Sweet Meat)  
ヘンダーソン商會が發賣せる新種にして、外形はロッキー、フォードの圓きものに似たる楕圓形にして、横徑五寸重量二百七八十匁あり。縦溝を有し、網條を細くして美し。外皮は鈍色を帯びたる綠色なり。肉は極めて厚くクリーム色を帯びたる綠色をなすも、種子部は少しく潮紅す。品質上等にして



舌頭溶るが如く爽快なる品味を有す。

(25) ハニー、ドロップ(Honey Drop) 果は圓形にして少しく扁し、肉厚く橙黄色を呈す。味極めて宜しく甚だ早熟なり。

(26) フツヅウ(Hoodoo) 大きロッキーフオード位なるも、果形一層圓し。種子部小さくして肉厚く、濃き橙黄色を呈す。本種はシカゴ市場に多く販出せられ品質可良なるが爲め、常に高價に取引せらるるこいふ。

(27) ハイブリッド、カサートバ(Hybrid Casaba) 大形果にして直径六寸乃至八寸あり。果皮緑色熟するときは淡黄色となる。白肉にして厚さ二三寸あり。品質優良。性強健頗る多産なり。

(28) イムブルーブド、グリーン、ナットメグ(Improved Green Nutmeg)

ナットメグ種を改良したる品種にして、中形果なり、果肉は淡緑。品質可良。結果多し。

(29) ゼニー、リンド(Jenny Lind)

小形にして扁圓、縦溝深し。果肉は黄色を帯びたる緑色にして、品質優良なり。極めて早熟の多産種とす

(30) ジャーギー、ベル(Jersey Belle) 前者に酷似し、果は扁圓、縦溝深く、網條は粗なり。果肉は緑色にして品質上等なり。但し熟季は前者の如く早からず。

(31) キンズマンズ、ク井ーン(Kinsman's Queen) 形状及肉質エマールド、ゼムに似るも一層大形なり。

(32) ナイト(Knight) パーシニアの一部に於て盛に栽培せらる、こいふも、其性状明かならず。

(33) リビングストーン、マーケット(Livingston Market) 本種は早熟に耐ふるを以て有名なり。品質上等の緑肉種なり

(34) ロング、アイランド、ビューティー(Long Island Beauty)

果形はハツケンサツクに似る。品質可良なる早熟種にして、米國東部市場に多く現はる。

(35) ロング、エーロー、カンタロープ(Long yelw Cantaloup) 黄肉の晩熟種なり

可良なり。

(41) メローズ(Melrose)

最も普通なる品種にして、果は殆ど圓形、直径五寸内外なり縦溝なく、網條は細かく美し。果皮は暗緑色を呈する。成熟に従ひ漸次錆色に變ず。果肉は淡緑色にして、種子部に近く淡赤色を帯ぶ。品味特に佳良なり。果皮薄けれども輸送に耐ふ。

(42) メルテイング、シュガー(Melting Sugar)

楕圓形にして長さ六、七寸、横徑三、四寸あり。果形よく揃ふ。縦溝淺く網條は細密なり。果皮はオリブ色を帯たる緑色を呈す。果肉は厚く緑色にして中央少しく紅色なり。肉質緻密にして舌頭溶るが如く、爽快なる風味を有す、香氣又高し。結果容易なる豊産種にして、性強健病虫の被害少し。

(43) ミラーム、クリーム(Miller's Cream)

一名オーセージ(Ogee)こいふ。楕圓形の中果なり。果皮暗緑色にして、美しく網條あり。果肉は橙黄色にして厚く重し溶るが如き品味を有す栽培者家に廣く知らる、品種なり。

(44) ミローキー、マーケット(Milwaukee Market)

(36) マコタース、ブライド(MacCort's Pride)

大果にして殆ど圓形、淺き縦溝あり。外皮暗緑色を呈す。果肉は黄色にして極めて厚し。品質佳良なる晩熟種なり。

(37) マモス、プロロフ井ツク(Mammoth Profile)

大果にして一貫四百匁より一貫八百匁に達するこいふ。果面には深き縦溝あり、粗き網條を得て被れる。果肉は緑色にして厚し。品質佳良、草勢強健なる晩熟種とす。

(38) マンゴー、メロン(Mango Melon)

又バイン、オレンジ、(Vine Orange) ヘジテール、ビーチ(Vegetable Peach)を稱する事あり。白肉にして果皮の色澤及大きさは殆ど甜橙の如し。ガーデンメロンと共に料理用に供せらる。

(39) マリー、デージー(Mary Daisy)

エマールド、ゼムに似るも遙に優良なり。果肉黄色にして種子部小さく、肉甚だ厚し。品味上等なる多産種とす。

(40) マッチレス(Matchless)

ネツテット、ゼム、の如き果形をなすこ更に大形にして、直径四寸乃至五寸あり。肉は甚だ厚くして淡緑色を呈す。品質

圓形にして淺く縦溝あり。外皮淡綠色を呈す。果肉は淡赤色にして香味共に佳良、家庭用にして最も適す。

(45) モントレオル、マーケット(Mantreol Market) 縦溝深き扁圓果なり。網條細かく、肉縁は綠色にして厚く、品質佳良なり。晩熟種にして低温の地に適す。

(46) ネットテッド、ゼム(Netted Zenn) 形も圓きものミ楕圓のものとの二あり。網條細かく、緑肉にして品質優良なり。本種は米國中部に於て最も普通なる品種にして、移出用として盛に栽培せらる、ミ云ふ甚だ早熟にして多産なり

(47) ニュー、ダンディ(New Dandy) 中位の圓形果にして、外皮暗綠色、美しく網條あり。品質優良の早熟種にして、特に豊産なり

(48) ナットメグ(Nutmeg) 早熟の緑肉色にして、品質甚だ可なり。この名はナットメグ(肉豆蔻)に似たる處より起りたりといふ。

(49) ナットメグ、タイプ、トップ(Nutmeg Tip Top) 赤肉種の良品にして、香味共に甚だ可なり。

更に多し。

(54) ローズ、ゼム(Rose Gem) ネットテッド、ゼムの改良種なりといふ。

(55) スキルマンズ、ネットテッド(Skillman's Netted) 楕圓形にして香味共に可良なる早熟の緑肉種なり。

(56) スバイシー(Swacy) 大果にして丈七八寸横徑五寸に達するものあり。外皮は微に網條を生ずるのみにして一体に平滑なり。熟季に近づくに従ひ灰色を帯びたる黄色を呈す。種子部小にして肉質厚く且つ堅し。品質優良なる赤肉種なり。

(57) ストロベリー(Strawberry) 品質上等の赤肉種なり。其味恰も草莓の如し、よつてこの名あり。重量七百匁乃至一貫匁に達す。

(58) サープライズ(Surprise) 楕圓、果肉橙黄色を呈し、品質上等の早熟種なり。

(59) スweet Air) パージニアに於て近頃多く栽培せらるるに聞ても性状明ならず

(60) シラクユース(Syracuse)

(50) オハイオ、シュガー(Ohio Sugar) 圓形果にして少しく楕圓なり。縦溝著しく、網條又多し。果皮淡綠色を呈す。緑肉にして甘味、甚だ上品好評あり。頗る多産、又本種は輸送に耐ゆ。

(51) ボール、ローズ(Paul Rose) 一名ハトスキー(Petoskey)といふ。ネットテッド、ゼムミリス、クリームミの交配によりて出来たる品種にして、や、楕圓形をなし、縦溝あり。網條細密、果皮淡綠色なるも熟するときは黄金色となる。果肉は橙黄色を呈し、厚くして堅り品質甚可良なる著名の品種なり。

(52) プロリフイック、ナットメグ(Prolific Nutmeg) 大形果にして稍や扁圓、品質中位なり。

(53) ロッキー、フォード(Rocky Ford) ネットテッド、ゼムの改良せられたるものにして、楕圓形をなし。縦溝深からず全面細き網條を以て飾らる。果肉厚く綠色にして、種子部に近づくに従ひ淡紅色を呈す品質最も上等なり。本種の一にレッド、ロッキー、フォード(Red Rocky Ford)と稱するものあり。これ前掲パレル、ゼムの書にして、甘味

大果にして外皮灰綠色を呈し、果肉は淡綠色なり、品質中位とす。

(61) テキサス、カノンボール(Texas Cannonball) 果形圓きよりこの名を得たり。外皮は美しく網條を生ず。緑肉種にして、栽培宜しきを得ば非常によく結果すといふ。

(62) ザ、グランド(The Grand) 殆ど圓形にして兩端稍や扁し、深き縦溝あり。網條薄し、黄肉にして多量甘味、高貴なる品味を有す。中部亞米利加に廣く栽培せらる、處のものなり。

(63) ジ、オードワイ、カンタロープ(The Ordway Cantalope) コロラド州のオードワイに於て發見せられたる品種にして、果は圓形に近くして兩端扁し大果なり。果肉は鮮肉色にして品質可良、長き輸送に耐ふ。早熟種にして草勢強健豊産なり。

(64) ウ井ンター、バインアップル(Winter Pineapple) 本種は收穫後一ヶ月餘に互り貯蔵することを得るも、暖地にあらざれば栽培困難なり。

(65) クリスマス、カサーバ(Christmas Cassaba) 本種はウ井ンター、メロンの一にして、中果楕圓形をなし

外皮は粗なり。果肉厚く、香味可良、成熟したるを採收し、や、乾きたる冷涼なる暗所に貯ふれば、一三ヶ月間完全に貯蔵するこゝを得べし。

### 苞形種

本種は前の郵船會社安藝丸船長今武平氏が、英國倫敦にて購ひたるもの、種子を持ち歸り、友人關西農園主、北神貞氏に分ちたるに始まるものにして、苞形の大果普通七八百匁なり。外皮はや、皺縮し、黒色に近き暗綠色を呈し、熟するときは少しく黄色を帯ぶ。網條を生ずるこゝ少し。果肉は白色にして極めて厚く、品味特に優良頗る高尙なる味を有し、他品種の遠く及ばざる處なり。草勢強健豊産にして、一株よく七八百匁のもの三果を着けしむる事を得。而して果を適當に貯ふるときは、四五十日間安全に貯蔵するこゝを得。たゞ本種の缺點は一見ボンキンの如き觀ありて、他の網皮種に比し見劣りするこゝ、香氣を有せず、晩熟種にしてロツキーフオードより十數日を後る、にあり。此品種は英國に於て種子を得たる處より、英國種と稱せらるゝも、其形狀、肉質の模様及久しく貯蔵に耐ふる點等より、英國種にあらざるべしとの疑を

生じ、種々調査研究の結果、ウ井ンターメロンの一類にして英國種にあらざる事を確めたり。即ち本種は形態全くウ井ンターメロンに屬するのみならず、この種のメロンは地中海に面する諸邦に於て、多數に露地栽培行はれ、英國に輸出せらるゝ、額は少からずこの事なれば、今氏が購ひたりと稱するメロンは、純粹の英國種にあらずして、他國より輸入せられたるウ井ンターメロンなる事は、殆ど疑なきもの信す。以上掲ぐる品種の中で、我國にて從來栽培せられて居る處のものゝを擧げるこゝ

(○印を附したるものは何れも成績良好のもの)

### 高等栽培 (室内及木框栽培)

- ベスト、オプ、オイル
- アレチム、オレンジ
- アールス、フエボリツト
- エマリラルド、セム
- イングリツシユ
- エキストラ、コーリテイ、ナツトメグ
- フロクモア、スカレレット
- ガントン、スカレレット
- ヒーロー、オプ、ロツキンジ

- ハイ、クロス、ハイブリツド
- ミッドレセクニ、ヒーロー
- モナーク

### ○ ヨングリーダー

- ローヤル、フエボリツト
- サットンズ、エー、ワン
- サットンズ、キング、シヨルジ
- サットンズ、パーフェクシヨン
- サットンズ、ローヤル、ジユビリー
- サットンズ、スカレレット
- サットンズ、シユバラテイブ
- サットンズ、ユニバーサル
- ザ、カウテンズ
- トライアンブ
- ビーチス、エミネンス

### 露地栽培

- 英國種
- イングリツシユ

## 第五章 種子

メロンの種子は、温度及濕氣の變に數々遭遇せしめざる様に適當に貯蔵するときは、五年乃至十年間は發芽力を有するものであつて、新しき種子よりは二三年を経たる種子に於て、

常に好結果を得るものであるは、米國に於ける多くの熱練家により唱へらるゝ處であるが、吾人の經驗によるも、又しかく感ぜらるゝのである。即ち一年目の新しき種子を用ふる

### 米國種

- エキストラ、コーリテイ、ナツトメグ
- フロクモア、スカレレット
- ヒーロー、オプ、ロツキンジ
- サットンズ、オプ、エアー
- サットンズ、パリスフエボリツト
- アグミ
- バンクエツト
- マレルス、セム
- アイリー、ハツケンサツク
- エマリラルド、セム
- ゼニー、リンド
- ハツケンサツク
- ヘンダーソンス、ニューボート
- ミラリス、クリーム
- モントレオル、マーケット
- ロツキーフオード

### 苞形種

まきは、草勢強く莖葉徒に繁茂するも、果形整はざるのみならず、特に其品質に於て不十分なるを思はしめる。然るに二三年目の種子を用ふるまきは、新しきものより少しく發芽が後れるが、生育中様にして結果歩合多く、品質優良なる美果を結ぶが常である。

されば良果の生産を期せんには、二三年間適當に種子を貯藏したる後用ふべきで、各品種の特徴を具へたる、品質優良なる果を選択し、採種の上は直に水洗ひを行ひ、數日間陰乾したる後、陶器製の容器又は硝子壺などに入れて、温度の變化なきや、乾燥せる場所(可成暗所)に貯へるのである。又種子は一番成りの熟果より採收したるものが、最も可なり

### 第六章 露地栽培法

余の從來の経験によれば、米國種はよく露地に於て生育結果するが、其香味在來種と大差なく、英國の優良種は生育不良にして結果悪く、何れも露地栽培は頗る困難なるを想はしめ一時は到底我國にては望みなしとまで斷言して憚らなかつたのであるが、其後適當なる氣候土質に於て、品種の選擇を裁

まは、歐米共に意見の一致する處であつて、未熟果より得たる種子は、其重量軽くして、熟果より得たるもの、三分の二を越へず、根部の發育又宜からずして生育不良、尙發芽に際して種皮を脱するこゝ困難なるは、一般に認めて是とする處である。

されば普通一般に未熟果より採種する様の事なきも、往々にして早熟種を得んがために、年々未熟果より採種する場合がないでもない。又未熟果より得たる種子にして、都合よく生育するまきは、極めて好結果を來すものであるとの説あるもこれに付いては著者は未だ経験がないから、眞偽を斷じ得ない。

栽培法に注意せば、米國種も本國のものに劣らざる良品を結果せしむる事が出来、又英國種にありても、好結果を得るの困難でない事を確めた。殊に二樂莊より遠からぬ鳴尾村(兵庫縣武庫郡)に於て、英米のメロンを明治四十四年以來盛んに栽培して、年々好結果を得て居るのを見るに至つて、愈從

來の考への間違つて居るこゝを認めたのである。

由來鳴尾村一体は、武庫川及枝川の二流より吐出した砂土であつて、地層甚だ深く、地下水冬季は二三尺夏季は四五尺の地なり、四面廣潤何等陽光を遮るなく、メロン生育季中は雨天甚だ少し、これを有名なるメロンの露地栽培地たる、支那の新疆、印度ベシヤールの風土に比するに、頗る似たものがある。即ちこれらの地方が甚だ深き砂土なるこゝ雨量少くして受光の充分なるこゝ、夏季氣温高く雨量甚だしく少きこゝ等である。(新疆地方の雨量少きは、西本願寺の吉川小一郎氏が該地砂中より、約一千年以前の完全なる木乃伊多數を掘出したるに徴しても知るべし)

同村に於ける栽培の開祖は、徳井徳太郎氏であつて、同氏は年々多數の栽培を行つて、常に好成绩を収めて居る。同氏の成功は單にこの氣候土質にのみよるにあらずして、熟練なる技術の助あるによるは明かであるが、同氏も適當の風土の下に於ては、嘗て西瓜や在來甜瓜を栽培せる經驗があるならば、メロンの露地栽培は、さして困難ならずと言へるに見るも、風土の關する處如何に大なるかを知るべし

である。

右述ぶるが如く適當なる氣候土質に於て(必ずしも砂土に限らず砂質壤土又は壤質砂土にして排水よき地ならば可なり)品種を栽培に意を用ふるならば、從來全く風味を異にする優良の果を得る、事は、最早疑ひのなき處であつて、栽培困難とせらる、英國の室内種も出來ない事はない。現に徳井氏は、ヒーロー、オブ、ロッキンジ、エキストラ、コーリテイを作つて良成績を擧げて居る。他の地方に作つた米國種は、甘味が薄い上一種いやな臭があるが、鳴尾で出來たロッキーフォードは棄て難い味を持つて居る、これによつて見るに、これまで露地で充分のものが出來なかつたのは、第一その適地を得なかつた事が最大原因であらう、無論品種の選擇及栽培の法も、又忽せにすべからざるは明かである。今後は須らく適すると思はる、風土の地方には、宜しく栽培を試むべく又一方不適の地にもよく生育結果する様、品種の改良を行つて、一般に普及せしめたいものである。鳴尾村に於て該地の風土に適する一二の新品種が、出來かけて居るなどは、單に右の意味より見るも結構な事である。

第一節 下種

メロンの播種には、定處に直播する場合、一旦苗床に仕立たる後本圃に移植する場合の二法がある。元來メロンは移植の困難なものであるから、在來甜瓜同様に直播するものが多い。然し米國種の様に種子の廉價なもの、或は自家採種のものなどは、種子代に厭ひはないが、英國種の様に一粒二錢以上二十錢もする様なものは、經濟上から見ても、苗床に仕立て、愛育する方が利益である。又人に先んじて市場に販出しようとするには、直播では不可能である其他作付の都合、或は管理上の都合等から、苗床に下す場合が少なくない。極く貴重な種子ならば、後章に説く木框や室内栽培に於けるが如く、鉢仕立にするか最もよい。直播は豫て四尺乃至五尺の距離に麥を仕付け置きたる作間に二三尺の距離に大きく孔を穿ちて、これに原肥を施し、よく耕土を攪拌したる後、少しく高く(二寸)土を盛り、その上に四五粒を下して薄く土を撒布し、尙切葉を覆ふて置くのである。(但雀多き地は見合すべし)發芽後は二三回に間引きて優良なるもの一本とする。

床播にせんじするには、先ず苗床を造らねばならぬ。木框があればこれを利用するに越した事はない。苗床は可成南向日受のよい位置を選び、巾三四尺長さ適宜とし、砂質壤土を三四寸の深さに盛る。若し早く播種せんが爲めに床播にする場合には、床面は地表より水平ならしむる様假設するか、又は床の下に藁を二寸位の厚さに敷くのであるが、何れも此場合には低く油障子を覆ひ夜間は菰や藎で保温を計るが常である。苗床には人糞尿糞灰の類少し許を施して、よく土中に吸収せしめ、三四日の後撒播又は條播とし、後薄く砂を覆ふて置くかくて發芽後適當の距離に間引き、本葉二三枚を開展した時本圃に定植するのである。若し定植の期を後れしむるの必要なる場合、又は肥料多きに過ぎて徒長の憂ひある場合等には二三葉の時一度苗床に假植し、四五葉を發したるまき定植すべきである、尙又植付後の管理を厭わねば、甲拆後で葉の少しく出んじする頃定植せば、最も植へ傷みが少い。播種の季節は地方により一定しないが、在來甜瓜と同季に行へば過りはない。阪神地方では八十八夜十日前が適季で、温床ならば、三月下旬より四月上旬の間である。

露地栽培のメロンも、木框や温室栽培に於けるが如く、播種前種子の發芽を促す事がある。これ發芽に長き時間を費さしむるまきは、子葉と幼根とに不具なものを生ずる事が多く發芽後の生育が遅々として振われないから、可成早く發芽せしめんが爲で、これには種々の法があるが、最も汎く行われて居るのは、微温湯に浸すこと一晝夜の後、充分水を含ませた布片か、半紙數枚の間に挟んで、醗酵盛んな馬糞、又は堆肥の間に埋めて置くのである。温室ならば鐵管の上に載せて置くだけで充分である。然るまきは種子の新古、温度の高低にもよるが、大抵三日乃至五日には幼根を發するから、幼根が二分位に伸びた時、豫め用意して置いた地に、一粒つゝ、ピンセットの様なもの、縦に植へ付けるのである。徳井氏は猶一種異つた方法によつて行つて居る。即ち種子を一晝夜又は微温湯に浸したる後、四斗樽に青草を詰めたもの、中に挿入して置くのである。然るまきは青草の醗酵熱によつて、一晝夜を経るまきは發根し初むるが故に、直に下種するのである。此法は少しく手数を要するが、頗る安全な良法と思ふ。馬糞や堆肥中に挿入するまきは、往々高温に失するが

爲め、幼根が一夜に五六分以上も伸びて、下種に不適當なものになつてしまふ事がある。催芽を行はずに、直に露地に播た場合は、種子の發芽までには、大抵十五日から二十日位を要するものである。

第一節 栽培法

移植

直播苗床播種を問はず、本圃には東西に四乃至五尺の距離に麥を條播し置き、幼時の日よけ風よけをなすべきである。此場合南北に條播したのでは、日陰を與ふるの効をなさない。移植は曇天無風の日を選び、移植の二三時間前に充分苗床に水を施して置いて、然る後移植機で丁寧に根を損ぜざる様、又根と土とが離れ々々にならざる様に起して、麥の作間に(前以て原肥を施し整地して置いた)株間二乃至三尺の距離に定植し、再び十分に水を施して置く。植付は一ヶ處に二三本とし、後一本に間引くが安全である。移植後徒々萎凋枯死するは、主として移植の際根を損じ、又は耕土を疏隔して水分の吸収が不完全なるにも拘らず、莖葉からは舊の如く水分を蒸發するが爲に、茲に水分の平衡を失



開花季中に雨天が多いと實止りが悪い。これ雨繁きときは昆蟲の出働を妨げ、雨滴は花粉を流し、柱頭の粘液を減せしむるからで、露地栽培に於ても花粉の人工交配を行ふて効多きは、總ての實験家によつて認めらる處である。

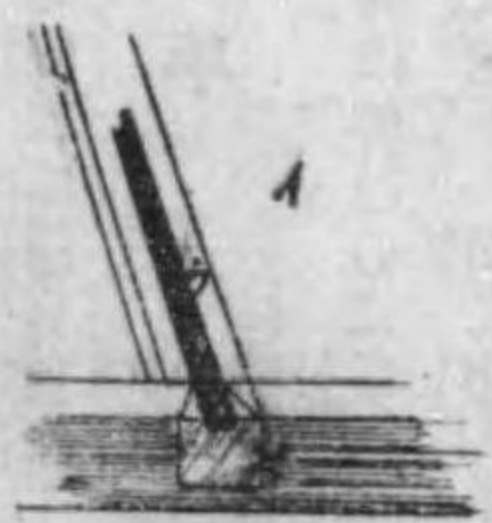
メロンも他作物の如く連作を忌むのみならず、年々同一地に栽培するときは、病蟲の害も又年々共に増加するから、是非

### 第七章 木框栽培法

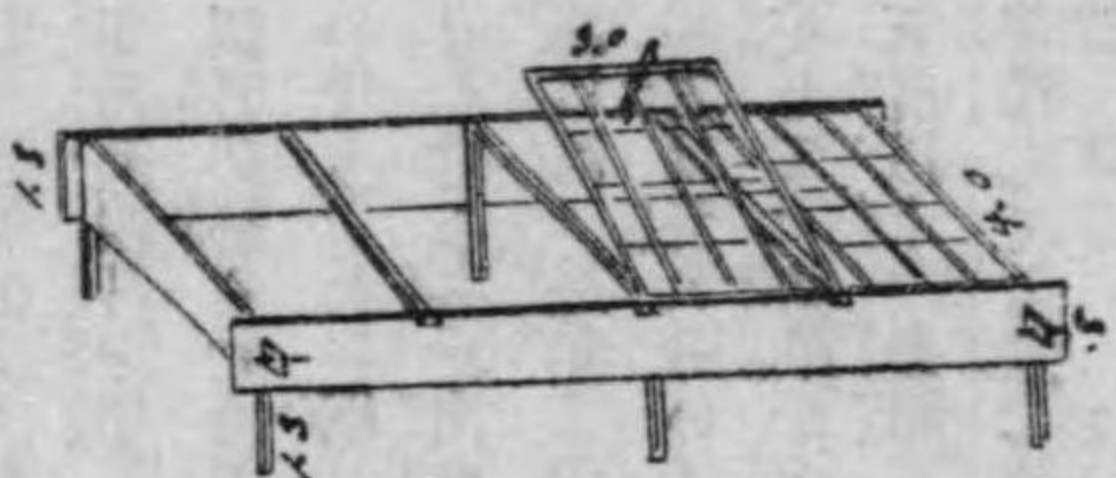
英國の優品は、室内栽培にすこしは最も望ましいことであるが、硝子室は設備に相當費用を要し、誰にでもいふ譯にゆかない。然るに木框ならば、僅の費用で何人にも實行が出来て、少し注意して作りさへすれば、温室栽培のものに大差のない良品が得られる。これが爲めに近頃この種の栽培が頗る増加した様である。

#### 第一節 木框の構造及据付方

メロンや胡瓜の栽培には(一)に示すものが最も便利である。このものは從來温床と稱して、我國に於ても古くより用ひら



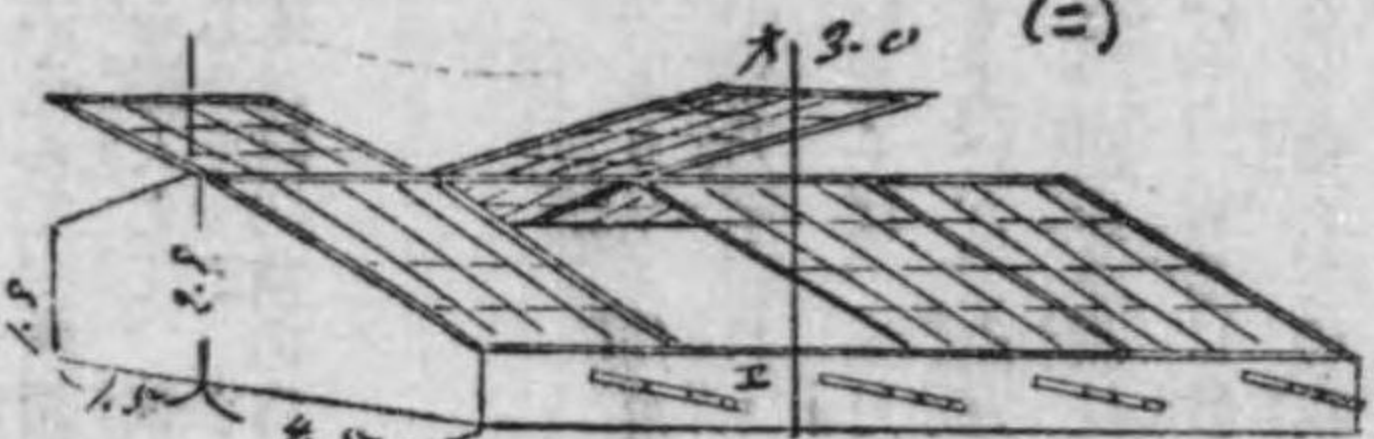
れ、蒿苣、草薺、茄子、豆類其他蔬菜の促成栽培に用ひられて居るが、又多くの花卉類の栽培にも適し至極便利なもので、しかも其構造は甚だ簡單で、費用も少くすむ、木框の巾は四尺長は六尺又は十二尺で、之に二枚又は四枚の硝子障子を架し(ア)の如き支器を以て障子の開閉を加減し、温度の調節を計る様になつて居る。框の四隅及前後の板の中央内部には、二寸角の足六本を釘付けで置くがよい。



これ作物が生長するに従つて、框を上につき上げる事が出来るからである。尙框には三尺毎に(イ)の用材を嵌め込み、障子を支ふるの用に供し、其表には(ウ)の如く浅き小溝を附して、各障子の間隙より、雨水が床内に滴下せざる様に設備する必要がある、

框板は八分乃至一寸の厚味のあるものを用ひて圖の如く組合せ、不用の節には框を解いて保存する様にせば、最も便利である、木框が出来上ればベンキを塗つて保存をよくすべきである。

(二)はスリーコーナー、スパンルーフ、フレーム (Three-quarter Span-roof Frame) と稱するもので、其名の如く四分の三の鞍形屋根の木框である。巾は普通六尺で



あるが、長さは二間三間等適宜で、巾三尺の硝子障子を中央の棟木に前後に取り付け、(エ)の鐵片によつて開閉するが、内部の作業をなすときには(オ)の様な支器で高く開くのである。周囲は一寸板を用ひてもよいが煉瓦を半枚積ませば耐久保存共に一層宜しい。

(三)はスパンルーフ、フレーム (Span-roof of Frame) と稱し、一寸兩屋根の温室を低くした様に見える。巾長さ障子の取付け方開閉等(二)と殆ど異ならない。

本框を据へ付ける場所は、管理に都合のよい南面温暖の地で、太陽の光線や温度を利用するに便利な上、風當りの強くない位置を選ばねばならぬ。出来るなら周圍を高く、生垣或は藁の類で圍ふ様にしたい。位置が定まれば東西に長く正南に面して据へ付けるのである。(三)は南北に長からしめても差支ない

(一)の本框にありては、必要に應じ框内の土地を一尺以上



二尺位掘下けて、これに種々の醗熟物を踏み込んで、所謂温床さすが、(一)、(三)に於てはた、耕土を搬入して、栽培するが常である。従つて早季の栽培さか、寒冷時の苗の育成などには、(一)によるが便利である。

### 第二節 下種

#### 下種の季節

早熟栽培、即ち露地のものより早く作り出すに、温床を設けてこれに下し、若し急がないならば、三月下旬乃至四月上旬に、同じく温床に下種してもよいが、尙遅く四月の終りから五月上旬の間に於て播けば、温床を設けなくても、たゞ框内に下種鉢をならべただけで、容易に発芽せしむる事が出来、且つ生育もよろしいから、初めての栽培家には、是非この頃に播くが安全であらうと思ふ。然し一利一害は免れないもので、四五月に播いたものは梅雨季中に開花して、結果が少い事がないでもない。温床に於て夜間六十五度以上、晝間八十度前後の温度を保てないならば、無理に早播しても宜しくない。これ低温であるに生育が不良で、良苗は到底得る事が出来ないのみならず、一三月に播いたもの

も、四五月に播いたものも、其收穫季には殆ど相違がない。徒らに早播して苦心するには及ばない。早く播いたものも遅く播いたものも、何れもその定植は、醗熟物を踏込まざる、木框に於て行ふものである。以上述ぶる處は阪神地方の温度を標準として書いたものであるから、阪神地方より以北の地はこれより尙遅く、以南の地は尙早く、多少の苦心を加へねばならぬ。

#### 下種の方法

下種には露地メロンの如く、苗床に下種する場合も、鉢に播く場合との二通りあるが、苗床播は生育のいい取扱ひにひ、到底鉢播のものに及ばないから、普通は鉢播にして居る。其法前章耕土の部に述べて置いた、牛馬糞の堆積土を、素焼の三寸鉢に盛り、これに一晝夜微温湯に浸して置いた種子、又は露地栽培同様芽を切らした種子の、細く尖つた方を下に、二分位土を被る程度に一粒づつ、挿込むのである。種子に餘分があれば二三粒を下し、発芽後勢力よきもの一本を残す様にすれば申分ない。四月末以後に蒔いたものは、其ま、木框内に併列して、適當の温気さへ與ふれば自然に發芽するが、四月中下旬播のもの

にありては、余は晝夜浸水した丈けのものを直に播き付け、巾四尺長さ十二尺の木框に、毎夜二三個のタドンを入れ、尙厚く蓋を被ふて、五六日の間に急速に發芽せしむる様にして居る。これ發芽に久しくか、つたものは幼根の先端を傷め、又甲橋葉が縮れて、満足な苗にならないからである。二月中旬より四月上旬頃までに播くものは、木框内に蒸熱物を填充して温床を造り、其温床中に鉢縁が少しく現はる、位に埋め込み發芽を計るのである。

メロンの發芽には七八度の温度を與へ、甲橋後は夜間六十五度、晝間、八十度位を保たしむる必要があるから、蒸熱物も其積りて踏込まねばならぬ。

#### 温床の踏込み

二月の下種には穴の深さは二尺位、少くとも一尺五寸位たらしむる必要あり。三月に入れば一尺乃至一尺五寸で充分である。温度の高低及持續は、踏込み材料の气温さにより非常な差を來すもので、嘗て余が二樂莊で試みた處を示す。

- 甲、半乾馬糞及糞百三十一貫五百十匁、糞屑十貫七百四十匁、水三十六貫、一月一日踏込み。
- 乙、半乾馬糞及糞七十三貫二百匁、乾燥木葉六貫匁、切葉十四

買六百匁、水五十四貫、二月六日踏込み。  
但し木框は巾四尺長さ十二尺とし、檢温は午前九時午後二時の二回に行ふ。括弧内の數字は華氏とす。

甲 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均
乙 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均
甲 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均
乙 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均
甲 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均
乙 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均

甲、は第六週に於て補温を行ひ、又後期は漸次氣温上昇せしため、極めて好都合に長期間高温を保持することを得たが、如斯は稀であつて、普通保温せざる場合には、攝氏二十度以上の温度を持續するは、一月に於ては充分に踏込むも五十日位である。

又遠藤氏の實驗(東京に於ける)によれば

- 丙、馬糞及糞百四十貫一圓九十五錢、木葉四十貫一圓六十錢、水三荷半
- 丁、紡績屑七十貫一圓四十錢、糞十五貫六十錢、水五荷。
- 戊、檜皮屑二十貫二圓十錢、馬糞及糞百貫一圓三十錢、水三荷踏込み何れも十二月一日、檢温は午前九時正午及午後四時の三回、括弧内の數字は華氏。



丙 (攝氏)	第一週平均	第二週平均	第三週平均	第四週平均
丁 (攝氏)	一九、五七、〇	二〇、五八、〇	二一、〇〇、〇	二一、八〇、〇
戊 (攝氏)	二〇、六六、〇	二一、八七、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇七、〇
第五週平均	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇
第六週平均	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇
第七週平均	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇
最高温度	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇
最低温度	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇
二十度以上の温度に達したる日	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇	二二、〇〇、〇

丙 四日目  
丁 翌日  
戊 二日目

これによりて見れば、一月上中旬に下種したものは四五十日内外の後、温度が二十度以下に降るに及んで、新しく踏込を行ふて、これに收容する必要があるが、一月に下種するのは一般に木框に於ては危険とせられて居るから、早くも二月中旬以後に於ては普通で、二月中旬以後ならば、育苗に要する一回の踏込みで充分である。萬一甚だしく温度が下降する様であつたならば、框の周圍を巾一尺深さ五六寸位掘り下げ、五六十貫の馬糞及糞葉を踏込み、温度の補足を計るがよい。床中の温度は發熱材料の種類と分量により、非常に差違を來すから、時季ご各其地方の温度の高低によつて適宜斟酌すべ

きである。これ等に付ては尙述ぶべき事が少くないが、あまり岐路に互るから、何れも専門書に譲ることとする。温床の踏込み終らば、温床腐壞の備ひかす二三寸を敷き、其上に耕土五寸を盛り、三四日の後温度上昇し、變化少きに至つて下種鉢を埋込むのである。

第三節 苗の仕立方

種子の發芽には、土中は勿論空氣中にも、や、濕氣の多い方を好むが、甲析葉を開いた後はあまり多濕ならざる場所に養成するがよい。發芽後の灌水は、早春に於ては二三日目位に行ふが、其後氣温昇騰するに従つて其度を多くし、二日目又時によりては毎日施用の必要を見る事あり。總て灌水は少量を數々行ふがよい、時を隔て、多量を與ふるを可とするは、他の花卉類と異りはない。これ一時に多量の灌水を行ふは、土中の惡氣を排除するの効があるからである。寒冷時の灌水には、微温湯を使用するを忘れてはならぬ。又葉にか、らざる様に施用することも注意の一つである。苗の生育中一二回油粕汁か(菜種油粕一升を水一斗に腐敗せしめ十五倍の水に割つたもの)牛糞汁の薄いのを施すこ、生育に資する事が

少くない。肥料は決して濃厚なるものを用ひてはならぬ。余は嘗て園丁の不注意から、少し濃厚な油粕汁を施したがため八百餘の苗全部を枯死せしめた苦き經驗を持つて居る。又肥料は移植前に施さないがよい。そうかこいふて稻の苗の様に定植前に肥料氣の抜けた苗は、定植後の生育が不良である。

第四節 栽培法

氣温低き時季にあつては、木框の蓋は夜間二三枚も重ねて充分に温度を保護し、高温に向ふに従つて其數を減じ、日中には外氣に觸れしめて短大な苗に仕立る様に心掛ねばならぬ。ノロンの栽培上病虫害の發生位恐るべきものはない。一朝炭疽病、べト病或は青枯、立枯病等の襲ふ處なるこ、モ一それが最後である。少しでも異常の苗を認めたら、惜まず燒棄するがよい。一週一回位葉上及周邊に硫黄華を撒布すれば、大に豫防の効がある。時には三斗五升式位のボルドウ合劑を撒注することも止むを得ない手段である。幼時に發生する害虫も又少くないが、これ等は一括して後章病虫害部に詳述することとする。

ある。萬一差支があつて此の期に定植が出来ない場合には、更に五寸鉢に一度植へかへるがよい。何れにしても鉢縁に根が甚だしく滿ちない内に、移植又は定植すべきである。

苗が適當の大きさに達したならば、醗熟物を填充せざる框内に、耕土七八寸の深さにや、蒲鉾形に盛つて、然る後苗を一框十本の割に二列に植へ付け、後充分に灌水する。植付の本數は人によつて其數を異にし、一框四本位に止めるものもあるが、余は品質との關係上結果數を一株二果に限るかはりに定植本數を多くして居る。

定植は無風の日の夕方に於て行ひ、根本はや、高く土を盛つて、多濕の爲め根部の腐敗せざる様に計り、又定植と同時に本葉三四枚の中、二枚を残し剪枝して二つの液芽を發せしめる。このもの伸びて六七葉を發した時、再び四葉を残して剪枝する。然るこきは各四の亞枝即ち孫枝を生じ、何れもその一葉目の部に於て雌花を發するものであるから、開花するに従つて一々人工媒助を行ふて受胎せしめる。(其法は室内栽培の部に述べ)其後受胎して最早落果の憂ひがない様になつた

ならば、其中最も形正しく發育良好なるものを、二の結果母枝に對し各一個を残して(二株一果の割)他は悉く切り去り次で果實を着けざる各枝は適宜摘心し、又結果せしむべき二枝も、果實より四五葉を残して先端を摘断して果の發育を計る。此後各葉液から何れも副芽を發するに従つて樹勢強き株は基部より、弱きものは一二葉を残して摘断するがよい。右の法によるときは果が止まらないといふ様な事は無いが、萬一にも全部の雌花が皆落下してしまふ様な事があつたならば、直に各枝を適當に切り縮め、再び強健な液芽を發せしめて、結果を計るのである。然し斯して出來た果實は一番目の結果枝に着生したものでより味が劣るのを覺悟せねばならぬ。植付後蔓が伸びて地に這ふ様になつたら、床地一面に麥稈を敷いて、莖葉が直接地に接しない様注意を與へてやる。又果實は横臥せしむるときは往々不正形のものを生じ、其味又劣

### 第八章 室内栽培法

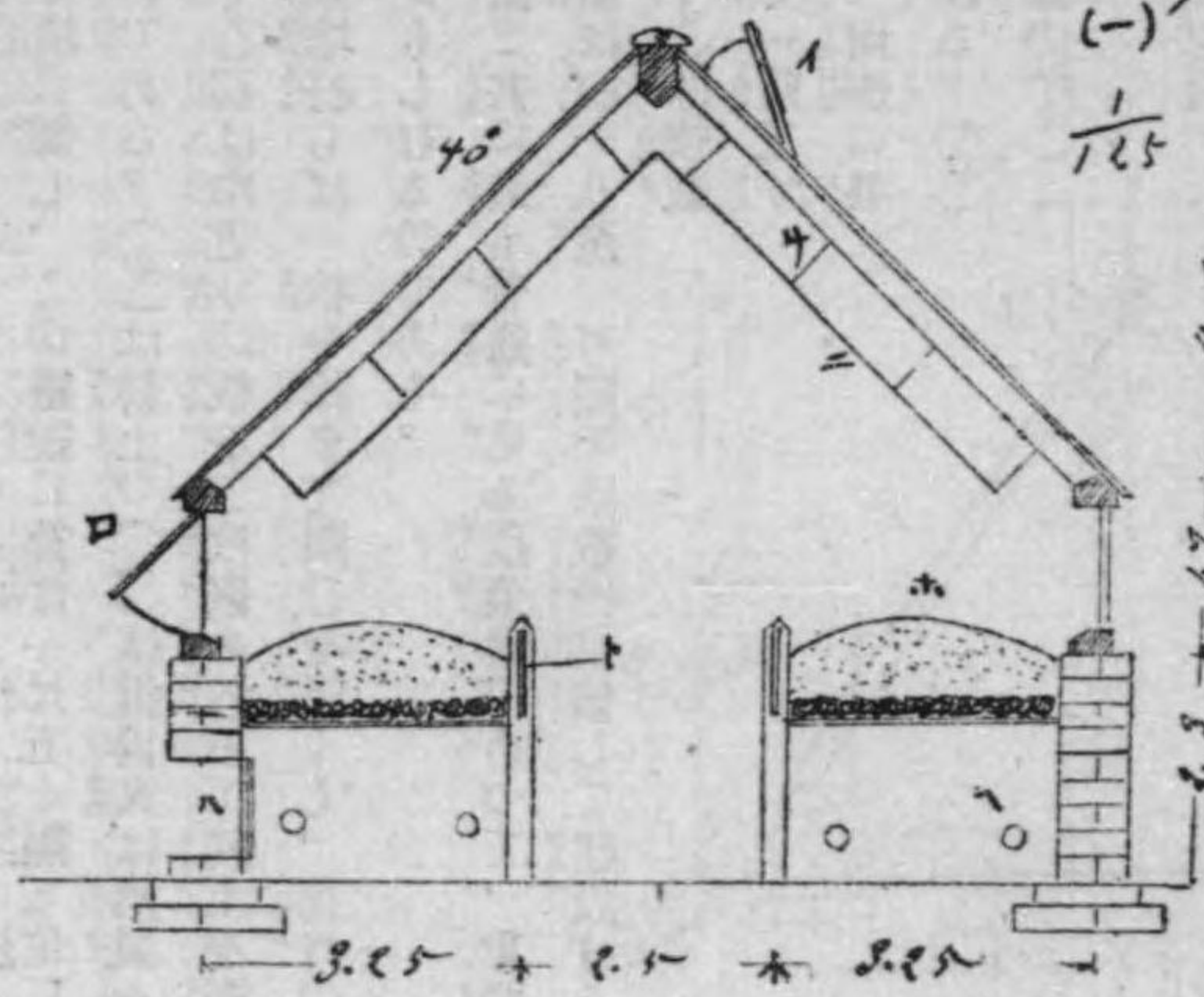
室内栽培は最良のメロンを得るの方法であつて、我國に於ては露地や木框に於て、如何に細心の栽培を行ふても、其品質

が常であるから、眞直に立て、發育の完全を計り、尙果の下には板を敷きて麥稈を隔離し、蟋蟀や蛆の害を豫防することも、忘れてはならぬ作業の一である。硝子障子の開閉は、温度の高低、風の有無、雨量の多少等によつて加減すべし、二三月は特に細心の注意を要し四五月は夜間密閉するも、六月以後は幾分の間隙を存せしむるの必要屢々あり、又日中高温に失すれば、硝子障子は一時取り除く等の場合も少くない。然しこれらの呼吸は實地に當つて初めて了解し得べきもので、筆舌に現し得るものでない。日光は萎れない程度に於て充分に受けしむるを可とするが、あまり高温に過ぐるときは日中一時日覆をなすこともある。此他肥料、灌水等木框栽培上心得置かねばならぬ事は少くないが、何れも室内栽培の部に詳述することとし、重複を避け

栽培に未熟なるがためであらう。

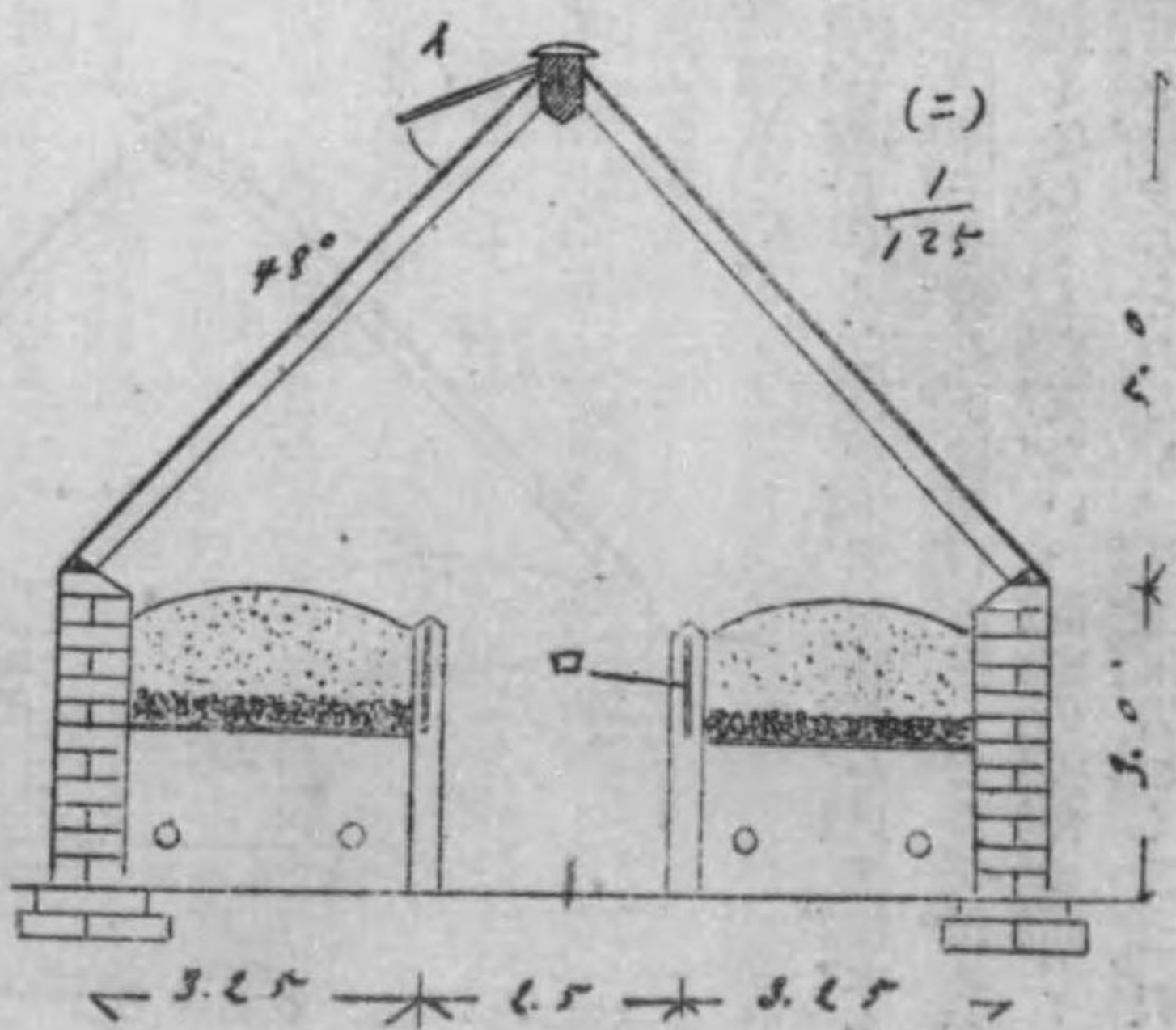
### 第一節 温室及ピットの構造

メロンのみならず總て蔬菜類を室内に栽培せんとするには、可成蔬菜専用室を設くるがよい。蔬菜類は他の花卉類と異り、早季の栽培には甚だ高温を要し、又生育上受光を充分ならしむる必要あり、鉢作りとするときは稀で、何れも床に土を盛つて定植するのであるから、花卉室の様な構造では不便を感ずること



が少くない。今最も普通なる構造二三を示せば。

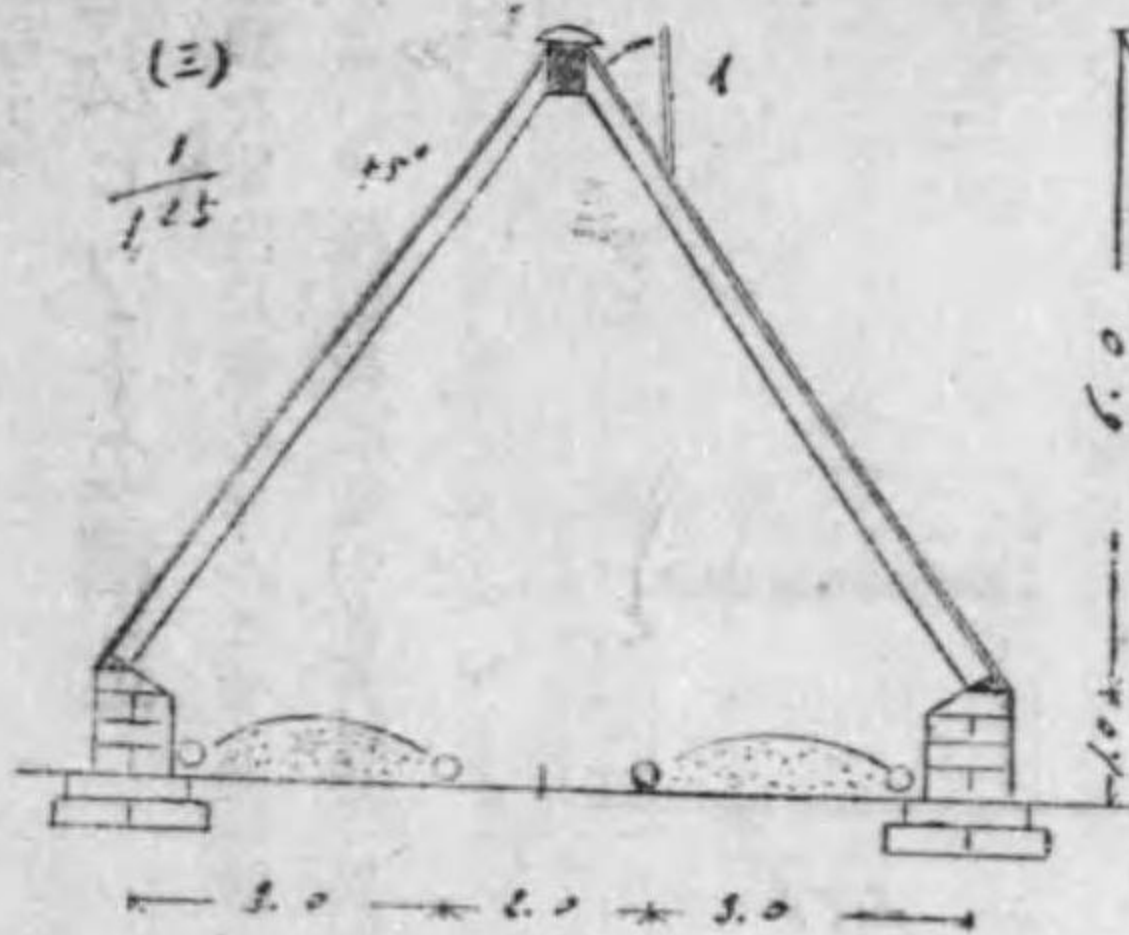
(一)は蔬菜花卉の何をも栽培し得らるゝ處のものであつて、梁間九尺桁行適宜屋根の傾斜は四十度である(一)の上窓は巾三尺、丈一尺三寸乃至一尺五寸とし、兩側各二間毎に交互に設ける。(ロ)は横窓で、この部は兩側共全部外に開く様になし(ハ)の下窓は巾一尺二寸丈一尺の引戸をなして開閉に便し、兩側共各二間隔てに設置する。(ニ)はメロンを誘引する支材(竹)であつて、硝子の受棧より(チ)の鐵片を出し、これに



稍や太き鐵線を横に架し、この鐵線に篠竹一尺五寸隔て位に縦に結付けるのである。(ホ)は耕土、(ヘ)は温湯又は蒸氣を通ずる鐵管、(ト)には巾五寸の板を二枚嵌め込みて耕土を圍ひ、メロンの栽培終らば一枚を除きて圍ひを淺くし、花卉の栽培に不便ならしむるのである。

(二)は(三)圖と共に最も普通に見る蔬菜室であつて、梁間九尺屋根の傾斜は四十八度、外國では數棟接續して建設する場合が多い。(イ)は換氣窓で、巾三尺丈一尺三寸乃至一尺五寸、兩側に各一間半毎に設ける。(ロ)の構造は(一)圖の(ト)と同一である。

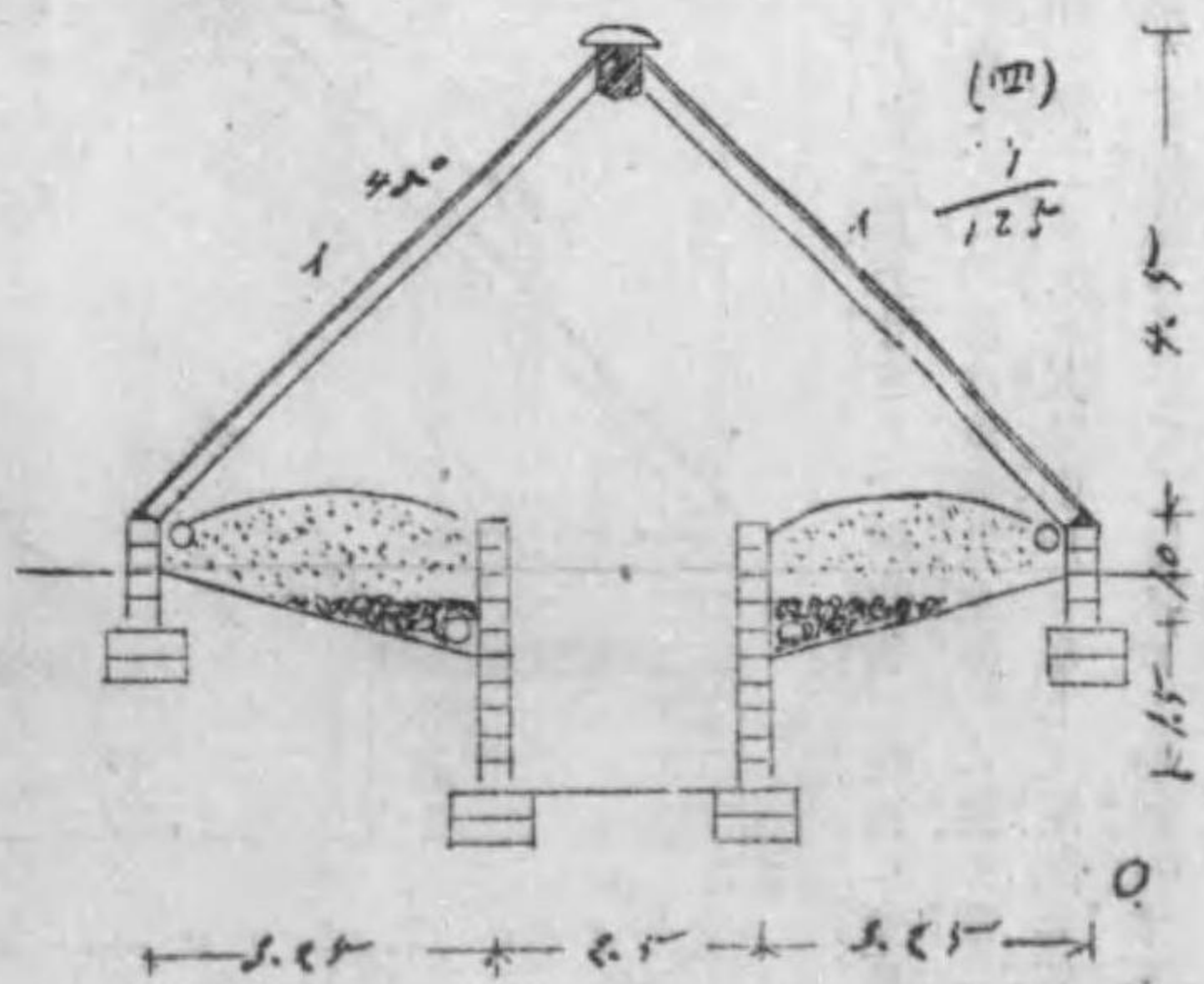
(三)は最も經濟的の構造といふべく、梁間八尺桁行適宜屋根の傾斜五十五度である。(イ)の窓は(二)圖同様巾三尺丈一尺



三寸乃至一尺五寸、兩側に各一間半毎に設ける。これ又數棟接續して建てらるゝが常である。

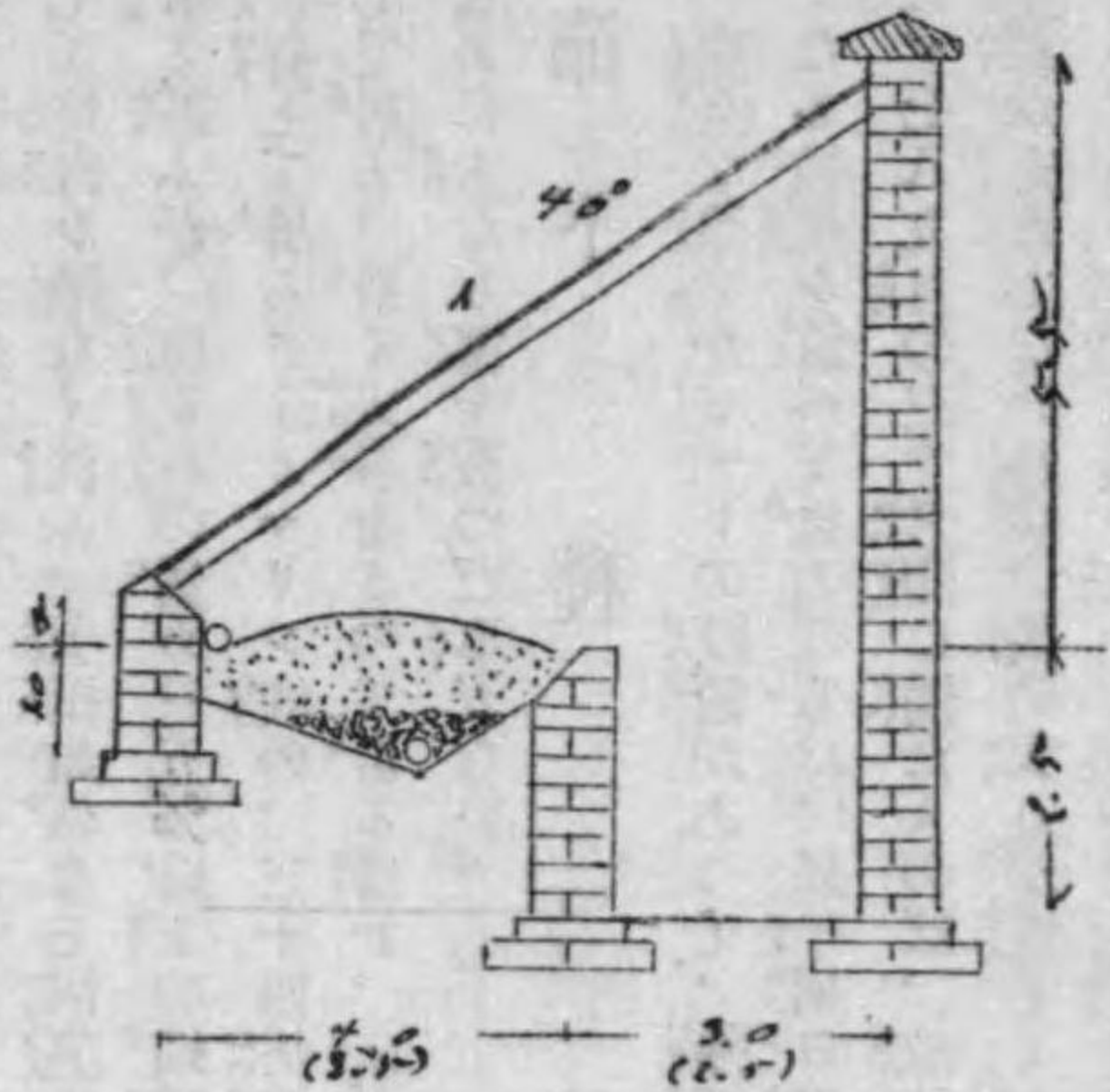
(四)(五)はビットであつて、地温を利用すべく地を掘り下げて低く設けたものである。普通

(イ)は巾三尺の硝子障子で、これが上部を蝶繋を以て棟木を取付け、換氣はこの障子を押し上げて行ふ様になつて居るが又前三者の様に窓をなしても差支ない。温室の場合と同じく鐵管を導いて温湯を通ずるとあるも、又温床の如く二三尺



を掘り下げて、發熱物を踏込み事がある。

(一)(二)(三)(五)何れの場合も煉瓦は圖の様に必ずしも一枚列させず、最初一枚列に二枚を積み、後半枚列に「(四)の如く」積み上げても、暖かい地方なれば差支なく、又上窓は從來は(二)圖の様に下部を押上げるが普通であつたが、近頃米國では(一)(三)の様に上部を押上げる様に造るものが多くなつた。これ換氣上此方が効果が多いからである。(二)(三)(四)(五)の何れも硝子面より七八寸を去りたる部に、(一)の如く支材を設けてこれに誘引鐵枝する。



室内に通すべき鐵管の大きさは、普通三吋乃至三吋半。ボイラーは近時非常に進んだものが出来て、石炭の消費量を著しく節約し得る、のみならず、夜間殆ど火夫の必要なに至つたから、温室園藝家には甚だ好都合であるが、加温装置は少くも室の面積が四五十坪以上でないに不利益で、殊に營利的栽培に於て然りである。

兩屋根をなすときは南北に長く建築し、若し地形上東西に長からしめんとする場合には、片屋根にして南面せしむるがよい、兩屋根の温室を東西に長からしむるときは、北面せる部分を受光充分ならず、蔬菜栽培には不適當である。

温室が出来上れば巾六尺の葎簾を取りつけ、滑車によつて上げ下しに便ならしめ、葎簾には二三尺毎にや、大木竹を編込みて、耐久力を強からしむるがよい。

### 第一節 室内の消毒

四十や五十のメロンを栽培するのならば、失敗した處で大した損害もなければ心残りもないが、四五百から作らうとする場合には並大抵の心配でない、しかも年々同じ室で栽培する場合には、前年の病菌の胞子が残つて、メロンの植付を待つ

て居るから危険千萬である、病害が発生した以上最早如何にもするこゝが出来ないのだから、余は植付前充分に室内を消毒することに居る、先づ第一に間隙の總てを張り上げて、カント硫酸を燻べ十二時間密閉して置く、然る後硫酸銅百匁を水二斗に溶かして室内を隈なく洗ふ、大抵如何なる病菌もこれで死滅する事と思ふが、尙安心の爲め三五%以上の蟻酸アルデヒドを含有して居るフォルマリン液の、三十四倍液を噴霧器で撒布して居る。斯く大事をこつて居る爲か、未だ嘗て余は病菌の爲めに大なる害を被つた事がない。

### 第三節 下種

下種の季節 完全な温室かビツトの設備があつて、熱練なる技術を備へて居るならば、周年何日播ても差支ない。たゞ七八九月の三ヶ月間に播たものは、成長があまりに早く莖葉が充實しない爲に、果の大きが宜しくないといふだけである。帝室御苑では十月から始め、翌年の五月まで順次に下種して居る。又東京府の試験場では、十一月下旬より四月中旬までの間に、三回位に下種して居る。こゝにいふ風に十月頃から初めて六月頃まで、三十日隔てて位に下種

するに、四月より九月頃まで間断なく收穫が出来る。又七月に播けば、果は小さいが十月乃至十一月に成熟する。加温の装置さへあれば同一場所にて年二回の栽培は容易で、少し周約にやれば三回の栽培も必ずしも不可能でない。(但しこれ等の栽培には四月中旬より、九月下旬までの間を除く期間は加温を要するものゝす)。

加温の設備がないたゞの硝子室又はビツトに栽培する場合に、木框と同様四月から五月上旬の間に播けばわけはないが温床を設けて苗を仕立て、後室内に定植するならば、早く二月中旬より下種して差支ない。この栽培に於ては先づ年一回作で、同一場所にて二回作らうとするには、餘程考へた上であつては甘く行かない。

斯くの如くメロンの下種は一定して居ないが、其香味からいへば、春播のものが最も優る様である。これ成熟季に充分の温度に日光に浴し得るからであらう。

### 下種の方法

加温装置なき硝子室栽培用の苗は、木框栽培の部に述べた方法によつて仕立てばよい。尙加温装置のものにても殆ど大差なく、素焼の三本鉢に前記

の堆積土を盛り、これに浸水又は催芽した種子を、ピンセットで一粒づつ、縦に挿し込み、二分位土を被ふて置くのである。若し種子が澤山あれば、二三粒を播て後一本に間引がよい。土に牛馬糞を混するに、數々蛆(種蠅の幼蟲)の爲めに發芽を害する、事があるから、余は必ず二硫化炭素で一度殺菌した土を使用して居る。其法一つの甕を用意し、先づこれに少し許りの土を入れ、次に二硫化炭素をふりかけて直に土を被ひ再び又二硫化炭素を撒布して土を被ふさいふ風にして、甕に満ちたならば、確かに蓋をして置く、斯くて二三日を経過した後、甕より取り出して一日大氣に曝し、充分瓦斯を發散せしめて然る後使用するのである。一磅の二硫化炭素で、一石の土を完全に消毒する事が出来る。

又温室に於ける催芽は、一晝夜微温湯に浸した後、充分濕した布片又は紙の間に狭んで、鐵管の上に載せて置くのである。然るときは三日乃至五日目には幼根を發するから、幼根が二分位に伸びた時に、傷めない様丁寧に鉢に植へつけるのである。

植付を終れば、七八十度の高温を有する室内に於て發芽せし

むべく、低温に於て發芽せしむるの不可なるは、數々前に述べた通りである。

メロンは、性質虛弱なものであるから、定植の際には選りに選つて完全無缺な良苗を用ふる必要上、定植する本數の二三倍の苗を仕立て、長ずるに従つて少しでも缺點のあるものは絶へず淘汰するがよい。

### 第四節 苗の仕立方

發芽後は充分日光に當て、肥料液水に注意して強剛に仕立てばならぬ。温氣を好む花卉類と同室に置くなきは、可成避けたがよい。其他は大抵木框栽培の場合と異わなから、茲には省略することにす。

定植は本葉二枚乃至四枚を發せる間に於てするが、最も生育上よい様である。

### 第五節 植付

室内の消毒を終つたなら、棚又は地上に一寸ばかり石炭滓を敷き、然る後豫て造つて置いた耕土を撒入して、凸に即ち蒲鉾形に深さ八九寸位盛るのである。灌水するときは容積減するが故に少しく餘分に盛るべし、土を盛り終らば急ぐ場合

には、其日の夕方に直ぐ植付けても差支ないが、土を入れて充分水を灌いで置いて、二日の後植付けるが最も宜しきに叶つた方法である。

植付けの節は厳密に苗を選別し、些かの缺點なき良苗を用ひねばならぬ。即ち病蟲の被害なく、莖葉短大に成長し、甲柄葉の丈夫なるものを選び、葉の縮んだもの、甲柄葉の枯死したるものなどは、勢力弱きの證據で、良質の果は到底結び得ないのであるから、これらは絶対に植ない様にすべき。又朝顔と同様メロンも終りまで、甲柄葉が落ちない様に作るが最も上手なので、甲柄葉の状態如何により、發育の良否が一見して分るものである。

植付けは必ず午後三時以後に於て行ひ、選り出したる苗には定植前充分灌水して、然る後鉢を抜き取り、甲柄葉に達するまで地に埋め、根本を床面より二三寸高くして、灌水の際水が停滞して根の腐敗を來さない様にす。鉢より苗を抜き取る前に充分灌水するは、鉢が乾いて居るに根がうまく鉢から離れないからである。植付後は充分灌水して置く。植付の距離は結果せしむべき數によりてこれを異にし、栽培

者は各々其望む處に従つて定むべきである。即ち一本に二又は三果を結ばしむる目的ならば、一間に付(床巾は三尺)三四本位とし、又一本一果を限る場合には、一間に六本乃至八本を植るのである。而して枝を分つこまき整形法を採つた時又は疎植をなす場合等には、巾三尺の床地に中央よりや、外方に片寄せて一列に植付けるか、然らざる場合には互の目に前後二列に植た方が、硝子面を經濟的に利用し得るの利益がある。餘は品質優良なる中果を多産するこいふ主義から、一本に一果を限るかわりに、一間に付八本を前後二列に密植して居る。此法の利點を擧ぐる。

(一)英國流に一本に對し二三果(往々六果を結實せしむる者あるも普通は多くも三果以内)に止むるを結果せしむるべきは品質に上下の差を來す傾きがある。即ち早く結果したものは味優るも、後れて生じたるものは品質劣るが常である。此關係は甲乙結果の時日の間隔の多い程甚だしい。然し一本に三果を止むるも同時に開花結實せしむれば、品質に善惡を來す事が少い。英國にて一本二三果を止むるも尙甲乙なき優良の果を産するは、剪枝法を巧にして同時に開花結實せしむ

るからである。余も最初三年間は此法によつて栽培を行つたが、技術が下手な爲でもあらうが、さうも書物に書てある様に甘く行かない。そこで一本に一果を限つて密植する事にした。一間に付三四本は植へ、一本に二三果を結實せしめて八九果を得んとするよりは、一間に八本を植て八果を得る方が遙に安全で品質も又一定した優良のものが得られる。

(二)メロンは株間廣くして一間に付三四本を植へ、一本一果を止め充分に施肥するときは、偉大なる果を得ることが出来る。余は嘗て一貫匁内外のものを數々結果せしめた経験がある。或人はピットで十二封度のものを得たこいふて居る。然し大形のメロンは素人眼には甚だ立派であるが、實用向きとしては頗る不適である。即ち大形の果は従つて又價も高いから西瓜なき、違つて一寸食ひたくても手が出せない。百匁五十錢にしても一貫匁あれば五圓の價である。そうかこいふて西瓜の様に切實は絶対に出來ないから賣買共に特種の用途の外には大果は不向である。假令又價は惜まないので、一貫匁なれば一人や二人では到底食ひ切れない、半分は朝食つて残りは夕方に食ふこいつた風に、一度切つた以上は何日迄も

香味を保つわけに行かない。大家族にあらざれば、購ふ前に當つて先ず食ふ相手を求めねばならぬなどは、頗る迷惑な次第である。こいふ風は大果は總てに不向である。先ず三四百匁のものが最もよからうと思ふ。一間に三四本を植て七八百匁のもの三四果を得るよりは、一間に八本を植て、三四百匁のもの八果を得る方が利益である。

右の様な理由から密植することにしたのであるが、充分栽培に慣れない人には、一間六本位にして一本一果たらしむるが最も完全だらうと思ふ。尙一間八本に密接する場合には、前列に植ゆるものは後列に植ゆるものより、十日乃至十五日位遅く播いたものを植へ付けるがよい。若し同時に播いたものを植るに、前列は早く硝子面に達するが故に、受光を遮り後列の生育を阻止するからである。又密植するときは後列のもの、下葉落葉するこいあるも大した害はない。

### 第六節 誘引及剪枝法

植付後數日を経るときは眼に見えて大きくなる。最も發育盛んなときは一夜に三四寸も伸長するものである。五六葉も發

生するに至つたならば、蘭殻がラフ井アで倒れない様上に吊り上げ、支材に達するに至ればこれに誘引する。その後伸びるに従つて眞直に支材に沿ふて上に誘引して主幹たらしめ、後列は支材の先端に達したるべき、前列は支材の先端より二尺内外の下部に於て摘心する。主幹が一尺位に達する頃より各下部の葉腋から順次に腋芽を發するが、何れも支材の部以下より出でたものは、悉く幼時に於て切り去り、支材に達したる部より以上に於て出でたる腋芽に開花結實せしめる。これ下部より出でた枝の結果したものは、其味最も優るを常とするが、あまりに其形が小さいからこれが結實を避るのである。右の如くして出さしめたる腋芽には各一葉目(往々二葉目)に於て雌花を着るものであるから、開花するに従つて花粉媒助を行ふて受精せしめ、何れも其枝は横に誘引纏枝する。

花謝して後受精確かなるものは暫らにして迅速な發育を初むるも、完全に受精しないもの、又は生理上何處かに缺けた處のあるものは、發育頗る遅緩で漸次黄變し、遂には落果するに至る。落果した枝は直に基部より切斷して、贅枝を省く。

むるも其味に甲乙がない。然し三枝を發せしめて其何れにも果を止めしむるは甚だ困難な事で、氣候の具合によつては一、二果處か一果さへ止まらないことがある。其時には各三枝を適當に剪り縮め、第二回目の結果枝を發せしめて再び結實を計るのだが、この場合には開花に不同を生じて品質に不均一を來すのみならず、一番目の結果枝に出來た果實より味が遙に劣るが常である。品質は兎も角豫定の果が止りさへすればい、さいふならば敢て差支はないが、品質の揃つた優良の果實を得んごするには、餘程氣候のいい處で熟練なる技術を持つて居るにあらざれば、進んで採用すべき良法ではなからうと思ふ。

又一法は前の法の様に一本立とし、極めて接近した二三の腋芽に、一、二果を結實せしむるのである。尙或人は一本立し下部より出でた腋芽は一度摘心して、第二の枝を發せしめて上部の腋芽と同時に開花結實する様にすれば、三四果を結ばしむるも品質に差異がないさいふて居るが、これ等は全く机上の空論である。

メロンの剪枝をなすに當り心得置かねばならぬ事は、剪枝は

此法によるべきは、主幹の各葉腋より多數の結果枝を發せしむるのであるから、如何に不結果の場合も一、二果以上は止るものである。されば果が愈發育して鶏卵大に達し最早確實さいふこが分つたならば(この時には幾分果色にも變化がある)可成主幹の中部以下に於て最も發育形状の良好なるものを一個を残して、他は悉く結果枝と共に切り去り、次で又残された結果枝も果の上部二三葉目に於て摘心し、尙主幹は結果枝の附着部より三四葉を残して切り縮め、専ら果實の發育を計る。此後絶えず生ずる處の無用の腋芽は、發するに従つて基部より剪去すべきである。

以上は余の所謂一本一果を止むる場合の剪枝法であつて、二、三果を止むる法は全く右と異つて居る。即ち最初支材の下部に於て摘心し(莖の先端五寸三四葉位、莖の充實した部分には摘心)三枝を發せしめる。この三枝は何れも第一葉の部に雌花を着け、三者殆ど同時に開花するから、花粉媒助を行ふて結實を計り、確實に果が止つた後、果の上部三四葉を残して三枝共摘心して置くのである。かくすれば一本に三果を止

必ず葉柄の附着部より、少くも一寸以上を残して剪つて置くさいふこである。メロンは濕氣を受くるべきは、其切口より腐敗して漸次下部に及ぼすもので、出來るだけ長く切つて置けば、切口が腐敗しかけた時には直ぐ切り直すことも出來るし、又下部に腐敗を及ぼすまでには收穫期に達するものである。余はメロンの莖葉を剪つた時には、直に其切口に硫黄華を筆で附着することに居る。斯くすれば殆ど腐敗の憂ひがなく、誠に都合がよい。切口の腐敗はかく思むべきものであるから、剪枝に用ふる鋏又は小刀は極く鋭利なものを用ふべきは言ふまでもない事である。

第七節 花粉の交配  
メロンは胡瓜、南瓜などと同様に虫媒花であつて、しかも雌雄其花を異にして居るから、花粉の交配は他の力に依頼せねばならぬ。即ち室外にあつては蜂或は蝶の類によつて自然に行われて居るが、木框或は溫室内にあつては受粉の媒介をなすべき昆虫が飛んで來ない。茲に於て人工媒助の必要が起るのである。雄蕊の花粉を雌蕊に完全に受けた時は胚珠は受精して落果する様な事はないが、花粉を受けなかつたものは何れ

メロンの剪枝をなすに當り心得置かねばならぬ事は、剪枝は

も必ず落果する。メロンの開花は朝に於てし、翌日又は三日目に至つて萎凋するものであるから、余は毎日開花した當日の午前十時より十一時までの間に人工媒助を行はしめて居る其方法は當日開花した同種類の雄蕊を取つて来て、筆か(毛の固つたもの、先を砕いて用ふ)又は紙擦の先に花粉を附着せしめて、これを雌蕊の頭即ち柱頭に軽く塗り付けるのである。たゞこれだけの手段で別に技術を要するものでないから容易に行ふことが出来る。外國では駱駝毛で造つた筆を用ふるさうである。然し澤山の花に一々筆や紙擦で交配するのは面倒であるから、余は近來雄花の花瓣を撈り取り雄蕊丈にしたものを、直に雌花に接觸して其目的を達して居る。完全に受精した花は然らざるものより早く萎凋するは實驗により明かなる處である。

斯の如く木框や室内栽培のものは、悉く花粉媒助を行ふのであるから、多數の品種を栽培した場合には、勢ひ雜種を生じ易い。一二次の雜種は果肉に變化を來す事は少いが、果皮の色はたゞ一回の交雜で直變化を來すものである。それで採種用のもの又一定の果色のものを得やうとするには、嚴に

交雜を避けねばならぬ。花粉の交配が済んだ花には、紙片に交配の月日を記して附着し置けば、採種の時期を各果に付いて豫想する事が出来るから頗る便利である。

### 第八節 網 掛 け

果がだんぐり發育して大きくなつて來るに、纖弱な蔓は到底これを支持することが出来ないで、遂には蔓は折れて果は墜落するから、夏橙大になつたならば、麻糸で高さ六七寸の目の粗き網を造り、四隅に一尺五寸位の糸をつけたものの上に吊つて置く必要がある。往々布片や板を用ふる事が無いでもないが、生理上網に越したるものはない。

### 第九節 肥 料

前章耕土の部に述べて置いた作り土を用ふれば、別に大した補肥の必要を認めないが、それでも實止りが定まつてから夏橙位の大に達する頃までに、二三回液肥を少しづつ、灌水中に混じて施す、其發育に資する事が少い。若し肥不足の徴を認めるならば、三四回の補肥も敢て差支ない。人によつては補肥は其品位を悪くするから、絶対に施用しないがよい。

説く者もあるが、これは施肥の時期と分量を誤るが爲で、決して補肥其もの、罪でない。定植後開花結實して實止りが確實になるまでの間、果が發育して網を生ずるの徴ある頃より成熟するまでの間は、如何なる場合も絶対に施用してはならぬ。これ開花の頃勢力強きに失すれば實止り宜からざる、後期に於て施肥すれば果の品質を悪くする事の免るべからざる事實あるからである。又補肥は濃厚なものを用ふるに、發育の順調を缺き、往々果に割目を生ずる場合がある。肥料の種類は油粕か練粕の水に腐敗せしめたものがよい英國では牛糞の腐汁を費用する様である。これは危険が少くてよからうと思ふ。果の發育に資し併せて甘味の増加を計らんが爲め、過燐酸石灰や草木灰の少量を用ふる事も、又望ましい場合が多い。尙又一法として補肥の代りに根が耕土の表面に現はる、頃、新しき肥沃の土を床地の表面一体に敷く法は、廣く外國に行はれて居る。

### 第十節 灌水及撒水

灌水の清冷なるものは好ましくない。空氣と日光に曝されたもの程宜しい。寒氣厳しき時期には微温湯(地温より少しく

高き)を施す必要を見るが三月以後はたゞの水で差支ない。灌水は耕土の乾濕を見計ひ適宜に施すべきで、普通早きも三日目遅き時は五日目に行ふ。生育中は不足なき様充分に施し決して些の不足を感じしめてはならぬ。開花の初めより落花後二三日目までの間は、灌水を節するに共に室内空氣の乾燥を計り、花粉の成熟胚珠の受精に支障なからしめて、落果を防ぎ。又成熟に近づくに従つて漸次灌水の量を減じ、採收到近づきては愈々少くし、少々萎れることも頓着する事なく、乾燥を維持して甘味の減少を防がねばならぬ。元來メロンは前に述べた通り濕氣を思むものであるが、これも程度問題であつて、生育中灌水不足すれば、果の發育頗る不良で網が満面に出ない。従つて味の悪いのは當然である。そののみならず無理に灌水を節し、又空氣の乾燥度に失するときは、赤壁蝨、スリップなどの發生多く、遂には其害に堪へない様に至るであらう。英書には何れにもよく水を節して乾燥を計れと出て居るが、これ彼國に於ては胡瓜の室内栽培が盛んで、且つメロン栽培は先ず胡瓜栽培に成功したる後に於て着手せよと言われて居る位だから、空氣中にも土中にも多

濕を好む胡瓜の栽培に慣れて居る栽培者を誡むるの言であつて、専ら乾燥をのみ計れさいふのでない。彼國の説を直に我國に實行しては失敗を免れない。空氣が乾燥すれば、我國では可成避くるの必要ある莖葉への撒水を、彼國では數々實行して居るのを見ても、此間の消息が解し得られようと思ふ。我國では生育期が七八九月に當る第二三回作のものには、特に通路へ數々撒水して空氣の乾燥を防ぐ事があるが、他の場合には殆ど行はない萬一にも莖葉に撒水の必要があれば日没後に於てするがよい。

水を根元に注ぐ腐敗を來すの恐れあるを以て、根元を少しく離れて施し、又莖葉には可成かゝらない様に施用するがよい。

### 第九章 收穫貯藏並に食ひ方

メロンは花粉交配後早きは三十日にして完熟し、遅きは五六十日にも及ぶも、先ず平均四十七八日目に成熟する。總て外皮の白又は淡緑色のものは、熟期遅きの傾きがある。メロン採收の好期は、固有の果色を現わし、芳香を發し、果の成り口が少しく離れかけた時である。

い。尙床地の外側は(木框は後部)他の部分より一層乾燥し易いから、施水を多くする必要がある。

#### 第十一節 通風と受光

氣温昇騰するに従つて窓の開きを大きくし、夏日炎天の日は時々四方を開放し充分通風を計るを肝要とし、受光は前に述べた通り炎天の日中少時を除く外、萎れない以上可成日光に觸れしむるがよい。甚だしき降雨ありし後、又は雨天の續いた後急に強烈な光線に觸れしむるときは、莖葉を傷めるから斯る場合には徐々に日光に馴れしめるなど、不絶細密の注意を怠つてはならぬ。

樹勢強きメロンは一回の收穫を終りたる後、往々第二回の結實を計る事あるも二番成りは不味な處から普通行われない。採收したるものは四五時間日光に當て、追熟せしめ、然る後清涼な暗處に二三日貯藏して置いて、食卓に上すのである。採收して直食つては充分の味が無い。メロンは比較的永く貯

藏の出来るもので、一週間位は其まゝにして置いても差支なく、冷蔵庫に貯へたものは十日が十五日になつても腐敗する様な事はない。最もウ井ンターメロンは乾きたる冷涼の暗處に貯へて置けば、夏秋の頃採收のものをよく二三月頃まで保つ事が出来るといわれ、又支那の新疆では土窟の中に吊して翌年新果が出るまで貯へるさいふこである。

食ひ方は小果ならば二ツに斷ち、大果ならば四ツ六ツ等適宜に切つて、(漿液を失わない様に)匙で掬ひ取つて外皮一二分を残す處まで食ふのである。牛乳や砂糖を加へ、或は莓水や

### 第十章 病虫害

多くの蔬菜類中最も病虫害多きは、胡蘆科に屬する作物であつて、此種の作物は常に細心の注意を加ふるに拘らず、必ず何れかの病虫害の爲め毎年多少の損害を被らない事はない。その中でもメロンは病虫害に對する抵抗力最も弱きもので、一度これが發生を來すに、如何に驅除豫防に勉むるも、草勢恢復し能わざるものであるから、發生に先ちて充分なる豫防を行ふこゝが肝要である。今最も普通なる者の二三を擧げらる。

#### 害

ブランドーを注いで味はふさか、其他色々の食ひ方がある様だが、これらはメロン固有の香味を味はふには不適當な食ひ方であつて、砂糖や莓水はメロンに甘味が少い場合に特に用ひらるゝに過ぎない。其眞の味は少量の塩をふりかけて、匙で掻き取つて食ふに限る。夏ならば、豫め氷に冷して置けば申分はない。廢物利用として幼時に間引いた嫩果を砂糖味噌、酒糟漬みなし、或は胡瓜の如く塩漬みなすときは、甚だ美味でなく、棄て難い味を有すこの事である。

#### 赤壁蝨

(Tetranychus sp.) このものは昆虫にあらすして蜘蛛類に屬する有害動物である。メロン以外多くの果樹、蔬菜、花卉等にも加害し、其損害甚だ恐るべく、メロンに發生するときは葉の表裏を咬み、養液を吸收するがため被害部は固有の色澤を失いて、灰白を帯び遂に落葉するに至り、草勢甚だしく衰弱する。

體軀は楕圓赤色にして頗る小形、擴大鏡を用ひざれば明かに



形態を窺ふことが出来ない。卵は微小にして一粒つ、葉面に産附せられる。年十数回の発生にして、幼壁蝨は数回の脱皮をなして漸次成長する。

このものは性頗る頑強であるから、一度発生したならば容易に驅除する事が出来ない。室内に於ては葉上の撒水の外よき驅除法はない。一説に硫黄華の撒布は豫防の効があるこの事である。赤壁蝨は性乾燥を好むもので、これが発生は必ず室内が乾燥した場合に限る。室内空気に適當の濕氣を八含んで居れば、決して発生すべきものでない。

露地栽培のメロンに発生した時は、石灰硫黄合劑(ボーメー比重〇、一乃至二度のもの)硫黄石鹼合劑、硫黄曹達合劑の四五十倍液、除虫菊石鹼合劑、硫化加里液等を撒注するがよい。但し單に一回位にては充分の効を奏さないから、數回繼續して用ひ、葉裏にも充分行き渡る様丁寧に撒注せねばならぬ。

硫黄石鹼合劑は、石鹼水一升到硫黄華二三匁を混ぜしもの硫黄曹達合劑は、約三升の水に苛性曹達二百五十匁を溶解し次いで硫黄華五百匁を投じ、攪拌しつゝ煮沸するに、遂に全

く溶解する、斯くて後全量が二斗に達するまで、漸次温湯を追加しつゝ煮沸したものが、即ち原液なので赭赤色を呈して居る。このものを四五十倍の水で薄めて用ふるのである。本劑は原液を密閉して置けば保存することが出来るが、貯藏期間久しきに互るべきは、下底に沈澱するから、再び煮沸溶解して用ひねばならぬ。尙施用の際稀釋液一升到對し、石鹼水一、二匁を加用するに其効果が一層大なりこのことである。除虫菊石鹼合劑、石鹼一匁乃至二匁を薄く削りて一升の水に入れ、然る後火上にて充分溶解したるものに、火を去るに同時を除虫菊粉一匁乃至二匁を投じてよく攪拌し、六時間以上冷却して用ふるのである。

硫化加里液は、水一斗に對し硫化加里五十匁を溶解して用ふる。

### 子マトダ

(Heterodera ruficornis Greel) 異名を根線虫、線虫、節根病虫等稱せらる。これ又昆虫にあらす蟻形動物中の小蠅蠅虫科に屬するもので、瓜類の外茄子トマト葡萄菜豆大豆桑等をも害すといふ。此ものは根部に寄生し養液を吸収加害するのであつて、常に栽培要件に留意する。

るに拘らず勢力振はず、原因不明にして怪訝に堪へない場合は、往々これが寄生を受けて居る事がある。この害を被つた根は刺戟を受けて、多數の小腫起を生じて居るが、又は變色して居るから、其部分を探つて鏡檢すれば眞偽は直ぐ分る。老熟せるネマトダは雌雄異体で、雌は徳利形で体長〇、九五乃至〇、六六幅〇、四一乃至〇、六五幅あり、雌は線狀をなし体長二、五乃至一、五幅〇、〇三六乃至〇、〇二幅に過る。又仔虫は細長くして体長約〇、一五幅〇、〇〇九幅に過ぎず、雌雄の區別は不明なるのみならず、其經過習性も未だ明かでない。温度が高いと發育盛んであるが、冬季は蟄居して害を加へない。年三四回發生するもの、如く、性濕地を好み、又粘土或は腐植質を多く含んで居る地によく發育し、砂地は比較的少く、尙下層土には少くて地表に多しといはれて居る。

これが防除法として、室内にあつてはこの發生を認めれば直に燒棄し、又被害植物附近の土壤は一部の虫や卵が残つて、次に栽植する作物を侵すから、これ又取り捨てるがよい。但し年々新しき池土を耕土に用ふれば此害は絶對にない。

露地に於ては反當り十七貫目の石灰窒素、又は一坪に付フォルマリン一升度を二バーセントに稀釋して、撒布し、土壤中によく混合する事。數年間被害の虞ある作物を栽培せざる事、二硫化炭素を根部の附近に孔を穿ちて注入し能く表土を踏み堅め置く事。(但し藥量多きに過ぐれば作物を枯死せしむるに注意を要す) 根部の周圍に硫黄華を撒布し、よく土壤に攪拌する事。(即ち一坪に約三十匁内外の分量を木灰と混合して施用す) 土地の排水を能く乾燥を計る事。等である。

### スリツプ

(Thrips tabaci Lind) このものは赤壁蝨同様室内乾燥に失するときは、夥しく發生して養液を吸収し、大害を與へる昆虫で、室内メロン害虫中赤壁蝨と共に最も恐るべきものである。この害を受けた葉は灰白色を呈し、後日乾燥して落葉するに至る。体形細長く(長さ三厘餘)微小にして淡黄色を呈して居る。其經過明かならざるも、其繁殖は頗る速なるもの、様である。

これが防除法としては、葉上の撒水及び除虫菊石鹼合劑の撒注等である。

### 蚜虫

俗にアリマキと稱するもので、農作物の殆ど總てに寄生して、成虫、幼虫の別なく養液を吸収して害を與へる最も普通なる害虫であるから、茲に更めて習性經過の説明を試みないが、メロンに發生する蚜虫は黒色、褐色、綠色等のもので、何れも盛んに單爲生殖を營むから、瞬刻間に増加して、芽を損ひ葉を捲縮せしめ、或は莖を萎縮せしむ、さればこれが發生を見たならば、多く繁殖しない内に早く驅除すべきである。

防除法としては、除虫菊石鹼合劑の撒布は最も効あり、一回にして殆ど全滅せしむる事が出来るが、若しこの藥液を撒布するに依つて、室内空氣の過濕を來たし、病害を誘ふ恐れあるときは、エキスル、オール、ケーキ、(E. J. Allen) (又は同液)を以て燻殺すべきである。この藥劑は燻蒸器によつて氣撒せしめるので、温室や木框にては至極輕便に、蚜虫のみならずスリップをも全滅せしむる事の出来る、頗る効能顯著なるものである。詳細の使用法は藥に説明書が付て居る。尚煙草エキスの三十倍液も効果ありといふ。

### 瓜蠅

(Anticaphora Femoralis Motsch) 一つに又ウリハムシ、瓜守、アカバイ等呼ばれる。木框及び露地栽培に於て、最も防除に困難を感じるは此害虫である。初めて作つた年は左程でもないが、毎年同じ場所にて栽培するに、其發生年々に増加し、遂には其栽培をして見込なきに至らしめる。此害虫は越瓜、胡瓜、南瓜、其他胡蘆科植物に群集し、葉花果何れも差別なく喰害する甲虫であつて、体長二分五六厘楕圓をなし、橙黄色を呈して居る。このものは交尾終らば地下に入つて數十果の卵子を産付し、卵子孵化して淡黄色の細長き幼虫となり、被害植物の根に喰入つて、恰も蜂の巢の様になつて居る事がある。幼虫は長じて蛹化し、成虫となつて地上に這ひ出で、冬季は日當りよき暖かな場所を選んで其處に潜伏し、翌年暖氣加ふるに及んで其潜伏所を辭し、喰害を初めるのである。

この防除としては根本に砂を撒布し、或は新聞紙を被ひ、又除虫菊やベロライトを撒布するなご、色々試みられて居るが、さうも完全な良法がない。たゞ木框に於て比較的安んずるのには、硝子障子の周邊に寒冷紗を附着して、周圍に垂し置き

障子を開くも、成虫の侵入し得ない様にするので、露地にありては幼時金網を覆ふのである。右の如く防禦をなす傍ら、成虫は見當り次第網にて捲取り、又朝露を受けて不活動な際に捕殺するがよい。發生の少い時はこれらの手段で兎も角も栽培し得るが、發生多きときは栽培を斷念するより外はない。

### 種蠅

(Anthomyia) (Pherbia brassicae Bouch) 種子の發芽

せんじするに其内容を喰害して發芽を不能ならしめ、又は根部を害する昆虫である。瓜類の外、蘿蔔、蕪菁、葱頭、落花生等をも加害する。成虫は小形の蠅にして幼虫は淡黄色長さ三分を越へざる蛆で、年數回の發生を營む様である。

防除法は第八章第三節に述べた如く、鉢土は二硫化炭素で消毒するに、種子は可成早く發芽する様、下種前催芽法を行ふに、人糞尿其他臭氣強き肥料を施用するときは、多數の成虫飛來すこの事なれば注意すべきに、或は成虫の産卵を豫防する爲め、播種後乾砂を多量に撒布し置けば、卵より孵化せる幼虫は、土中根部に達する迄に至らずして死滅すべ

く、尚發芽後根元に乾砂を充分盛り置くか、又は除虫菊(一合)木灰(一升乃至五升)合劑、或はコールドターを鋸屑に浸したるものを振りかけ置けば、成虫の産卵を豫防し得られる。

### 露菌病

Plasmopara Cubensis (Barker Curt.) Humprey 本病を現はし、後病斑次第に擴大す。病葉は遂に黃褐色に變じ全く枯死するに至る。濕潤なる天候にありては其發生殊に多い通常下部の葉より發病して漸次上方の葉に及ぶ。英米地方に於ても本病はメロン栽培上最も恐るべき病害とされて居る。實際に於て最も惡質の病害である。

防除法として發病の憂ひあるときは、室内の乾燥を計るに共に、三斗式石灰ボルドウ液、硫化加里液、炭酸銅安母尼亞液、硫化石灰水等を撒布するのである。石灰ボルドウ液は最も安んずる効果があるが、温室やピット栽培にありては定植後は硝子を汚し、光線の透射を悪くするから、曹達又は安母尼亞ボルドウ液、炭酸銅安母尼亞液、或は硫化加里液を用ひねばならぬ。然し數々藥液の撒布をなす事は、メロンの性質にしてあまり好まないから、常に室内を乾燥に保ち、且つ一週乃至

二週に一回位、葉上及周邊に薄く硫黄華を撒布するときは大に豫防の効果がある。余は葉上には一週乃至二週に一回通路には毎夕撒布して居る。被害植物は病を傳播する恐れがあるから、發育の望みなきものは早く燒棄するがよい。此他青枯病、炭疽病等發生被害あり聞くと、余は未だこの害を被つた事がない。これ等の豫防法は露菌病と同様でよからうと思ふ。

尙又一種の菌により、葉の一部或は根頸を腐敗せしめらる、事がある。これには發生を認めたら直ぐ石灰ミ木炭末を患部に撒布し、組織中の水分を吸収せしむれば、病淺きものは治癒するこゝが出来る。根元に水を注がない様にするは、一つはこの病を恐る、からである。

殺菌劑の製法 (農事試験場要報に依る)

石灰ボルドウ液。別名ボルドウ液、普通ボルドウ液、硫酸銅石灰液。

調合量 硫酸銅百二十匁 生石灰百匁乃至百二十匁 水二千乃至四千

硫酸銅及生石灰の溶解に用ひたる水の全量を呼びて二斗

此混和液は即ち二斗式石灰ボルドウ液にして、少しく粘氣ある着色液にして直に施用すべきものなり。ボルドウ液は調製後三十分を経過するも、殆ど沈澱を生ぜざれども、生石灰の品質不良なるか、又は調製上適當の注意を缺きたる場合には、液は速に沈澱を生じ其粘着力を減少す。

調製上の注意

- 一、桶には豫め其内面に五升毎に水準を記し置くを便す。又何式を問はず全量の水を半分宛に分ちて、生石灰ミ硫酸銅ミを等分に溶解すべし。
- 一、生石灰を粉碎せしむるには初め少量の熱湯を用ふるを可しすれども、之を溶解するには必ず冷水を用ふべきものす。又生石灰液には多少の渣滓あるを以て、十分に之を濾過すべし。
- 一、生石灰ミ硫酸銅ミは雙方共に同量の水にて薄く溶かして、後兩液を同時に大桶に移し込みて混和すべく、決して濃厚液を混和して後に水を加へ、或は生石灰液に硫酸銅液を、或は之を反對に混和すべからず。然れども桶に一定量の水を盛り、其中へ濃厚なる二液を同時に注下し

式或は三斗式石灰ボルドウ液を稱す。材料の選擇。

生石灰は良好のものを用ひざるべからず。而して良好なる生石灰なれば上記百二十匁の硫酸銅に對し、百匁内外にて十分なれども、粗悪のものなれば百二十匁位を要すべし。硫酸銅は普通工業用のものにて可なり。又水は清良のものを選ばず勿論なり。

調製法 先ず大小三個の桶を準備す、桶の大きさは製造せんじ欲するボルドウ液の量に依つて異なれども、内一個は其全量を、他の二個は其半量を盛るに足るものを要す。今二斗式液二斗を製造せんじ欲するに是一個の小桶に硫酸銅百二十匁を入れ、熱湯二升許りを注ぎて溶解し、八升の冷水を加へて全量一斗をなし。又別の小桶中に生石灰百二十匁を灰に盛りたる儘入れ、之に少量の熱湯を注ぎ、生石灰の十分粉砕するを待ち、冷水一斗を加へ能く振盪して石灰の渣を去るべし。斯くて硫酸銅及生石灰を溶解し終らば、大桶に兩液を同時に移し込み能く攪拌す(仰筒にて液中に空氣を送り泡立たすも可なり)。

て、所要の濃度を有するボルドウ液を製するは、敢て差支なし。

- 一、石灰ボルドウ液は少しく塩基性なるを可しすれば、調製液に青色試験紙を浸し、若し赤變するときは更に此反應なきに至るまで生石灰液を注加すべし。
- 一、石灰ボルドウ液は調製後數時間を経れば沈澱を生じ、甚だしく粘着力を減するにより、入用の都度分量を計りて調製するを良しす。故に豫め硫酸銅及生石灰を別に溶かし置き、入用の都度之を混和すべし。

撒布上の注意

- 一、石灰ボルドウ液を撒布するには、ボルドウ式噴霧口を使用し、特別の場合を除くの外、一般に三斗式乃至四斗式液を用ひて可なり。又一回の撒布は其効力十日乃至二週間持續すれども、新芽の伸長速なるものは液劑の附着せざる葉、又は新梢を生ずるが故に、豫定期間を短縮するの要あり。
- 一、石灰ボルドウ液撒布の時期は、病害の種類及同一病害なるも發病部の如何に依りて異なれり。要は豫め殺菌

劑を撒布し置き、病菌の飛散し來り侵入せんことを、附着せる殺菌劑の爲め之を死滅せしむるにあり。故に發病十日乃至二週間前より、發病部を考へ撒布の時期を定むべし。

一、液を撒布して未だ乾かざる間に強雨あれば、雨の歇みたる後に再び撒布するを要す。然れども液の一旦乾きたる後に強雨ありたるときは、單に次の撒布を少しく早むれば可なり。

曹達ボルドウ液。別名硫酸銅曹達液、ブルガンデイ液

調合量 硫酸銅百二十匁  
炭酸曹達百六十匁或は苛性曹達三十五匁  
水三斗乃至四斗

調製法 一定量の水にて硫酸銅を炭酸曹達、又は苛性曹達を別々に溶し、共に之を同時に大桶に移し込み能く攪拌すべし又液に粘質を増さんため、生石灰十匁を少量の水に溶解して注加するも可なり。溶解に用ひたる水の全量と呼びて何斗(升)式曹達ボルドウ液と稱して、其濃度を示すこと石灰ボルドウ液に同じ。

調製上の注意

一、硫酸銅及曹達類の溶解法は石灰ボルドウ液に同じ、而して炭酸曹達及苛性曹達は、製造會社の異なるに従ひ多少品質を異にすを以て、液を混合したる後試験紙にて反應を試み、調製液の弱塩氣性なるの程度に加ふるものとす。

一、苛性曹達の量多きに過ぐれば、液は速に黒色に變ず又生石灰を加へて粘質を増したるものは、之を加へざるものに比すれば作物を汚染すること多し。

一、本劑は石灰ボルドウ液に比し作物を汚染すること少し、石灰ボルドウ液より粘着力強きを以て、降雨頻繁なる地方には却て効力多し。

安母尼亞ボルドウ液。別名瑞璃液、硫酸銅安母尼亞液

調合量 硫酸銅百二十匁  
安母尼亞一合五勺乃至二合  
水五斗乃至二五斗

調製法 先づ一定量の水に硫酸銅を溶し置き、之に安母尼亞水を注ぎ、大半注加したる後能く攪拌し、試験紙にて反應

を試み弱塩基性を呈するに至りて止むべし。但し安母尼亞の量多きに過ぐれば作物を損傷する恐れあり注意すべし。溶解に用ひたる水の全量と呼びて何斗(升)式安母尼亞ボルドウ液と稱して其濃度を示すこと、石灰ボルドウ液に同じ。

炭酸銅安母尼亞液

調合量 炭酸銅三匁三分  
アムモニア水七勺五才  
水一斗乃至一斗二升

調製法 先づ炭酸銅に極めて少量の水を加へ、糊狀に練りて固形物を碎き、後に安母尼亞水を加へ能く攪拌し、其溶解を俟つて水一斗を加ふべし。又便宜上濃厚なる母液を製し置き、必要に應じ水を加へ薄めて使用するも可なり。

調製上の注意

一、炭酸銅には細粒狀の固まりありて容易に溶解し難きを以て、先づ之を成るべく粉碎するを良しとす。

一、定量の安母尼亞水を加ふるも、炭酸液は皆溶解せざるにあり。尙餘分に安母尼亞水を加ふれば全く溶解し得べし。雖も、其量多きに過ぐれば作物を損傷するの虞あり。

るにより、炭酸銅の悉く溶解せざるにありても、其儘になし置くを安全なりとす。

一、濃厚なる母液を造り置き保存する場合には、壘又は徳利に入れ密閉し置くの必要あり。

一、本劑は清澄なる淡藍色の液にして作物を汚染することなし。

病虫害豫防上薬液を撒布する場合には、必ず晴天の日没後に行ふべく、雨天に殺虫液を撒布すれば病害を誘ひ、又薬液を日中に注げば、葉上の水滴は光線的作用で葉を焦し、或は萎凋せしめる。尙又薬液を撒布した翌朝は、水分が全く乾くまで日光に觸れしめぬ様にするがよい。(元)

大正五年八月十日印刷  
大正五年八月十三日發行

實驗メロン栽培法

定價金參拾錢

京都府加佐郡岡田上村  
千原清

大阪市北區上福島中一丁目五番地  
片岡秋水

大阪市阿波座中通一丁目卅八番地  
關西農報社印刷部

不許複製

著者 千原清  
發行所 關西農報社印刷部  
印刷所 關西農報社印刷部

發行所 關西農報社出版部

電話四土佐堀二三九六番  
振替大阪二三九六〇番

田村利親氏著 (中刷印下目) (錢拾四金價定)

# 短期密植果樹栽培收益法

果樹栽培家の秘訣

從來果樹栽培者の收支相償はずして空しく廢園するもの、類々として枚擧に遑あらざるは斯界の爲め遺憾の極みと云ふべし。著者田村氏は多年實地研究の結果其原因が主として疎植と種類的選擇其良しきを得ざるにあるを確信し茲に本書を公にするに至り氏は嘗て文部省、宮崎縣、鹿兒島縣、拓殖務省、東京府を経て農商務省に轉じ次で西ヶ原農事試驗場、興津園藝場、高知縣農事試驗場園藝部等に奉職し専ら果樹園藝の事に専任し屢々海内に遊説して其効果顯著なるものあり去る明治四十一年其職を辭し自ら大果樹園を開き爾來苦心慘膽實地之れが栽培に従事し目下模範果樹園として大に其名聲を博し斯界の「オーソリティー」として世に尊敬せられつゝあり

本書は實に氏が多年苦心經營實地經驗により案出したる氏獨特の短期密植栽培法にして記事緻密、詳細、適切、明快其種類の如きに至つては悉く密植最適の優品或は最新輸入のものにして普通園藝家の未だ嘗て耳目に觸れざるもの多く從て實地栽培家の爲めに寸時も座右を離るべからざる有益、必須の寶典たるを疑はず、望むらくは各地農學校、農事試驗場、農會等は勿論、世の果樹栽培家たるものは是非本書を繕ひて多大の利益と新智を獲得せられよ

園藝家の一大福音

發行所 大 阪 市 北 區 上 福 島 一 丁 目  
關西農報社出版部

# 肥料、土壤、礦物分析鑑定取扱規定書

- 一、分析ニ就テハ學術ノ神聖ヲ重シ公平無私ナルヲ以テ成績ノ正確ナルハ勿論又ハ其取扱ノ速ナル(三日以内)ハ本所ノ特色トスル所ニシテ其ノ規定ノ大要左ノ如シ
- 二、肥料分析鑑定ノ請求書ニハ次ノ事項ヲ記載セラルヘシ
  - 一、品名
  - 二、生産地若クハ製造地名
  - 三、生産人若クハ製造人名
  - 四、分析ヲ要スル成分
  - 五、供試品保存ノ要否
  - 六、分析ノ爲メ本所ニ送附セラルヘキ肥料ノ數量ハ左ノ如シ
    - 一、油粕類、糠類、魚肥、鳥糞ノ類、骨粉、(五十) 匁
    - 二、堆肥、厩肥ノ類、草木灰ノ類各種人造肥料(乃至) 貳百匁
- 三、分析ノ手續ハ一成分ニ付六拾錢トス、二成分以上一成分ヲ加フル毎ニ金卅五錢トス加里ノ定量分析ニ限リ本項ノ制限ニ據ラス一成分毎ニ金壹圓廿錢トス定性分析ノ手續ハ一成分ニ付金卅五錢トス
- 四、分析鑑定ノ成績ハ秘密ヲ守リ且ツ責任アル證明書(商取引裁判事件)ヲ作り之ヲ送達スルモノトス
- 五、本所ニ提出ノ分析供試品ニシテ他日再檢ノ用ニ供スル爲メ其保存ヲ要セラル、モノハ分析請求ノ際申込アルヘシ其他ハ都テ殘品保存ノ義務ナシトス
- 六、本項ニ依ル供試品ハ相當ノ用意ヲ以テ滿壹ケ年間保存スルモノトス

大阪市上福島中一丁目八番地  
**大阪肥料土分析鑑定所**  
 主任 農學士 野澤傳左衛門  
 電話 園土在場 三三九六番

# 賣販造製價廉料肥里加質良

## ●加里肥料

保證成分量 百分 二〇・五〇

加里肥料の効能は云はずもがな。今や獨逸硫酸加里輸入杜絶の爲め大暴騰につき弊店は一般農家は勿論共同購入者の爲め硫酸加里よりも優價にして効力多き(加里肥料としての効力は硫酸加里と同一なるも硫酸加里に優る點は本肥が鹽基性にして酸性土壤を中和する特質あり)前記の加里肥料(水溶性)を最も廉價にて販賣に應じ且つ全国各地に取次販賣店を募集す

製造元 掘見加里肥料製造所

大阪市北區上福島中一丁目

# 來由の造製料肥里加

歐米文明國に比し本邦農業上の大欠點は窒素、磷酸のみを施用し加里肥料の欠乏にあり。果樹、米、麥、蔬菜、茶、桑、藺其他何作たるを問はず加里肥料を施用せば根の發育を旺盛ならしめ從て多大の増收を得ると同時に其品質を改善せしむる事は學者並に實地經驗家の等しく唱道せる處なるにも不拘未だ一般に加里肥料の普及せざるを遺憾とし全國先輩各位の聲援により茲に本肥の製造を開始せし所以なり

## 肥料廉價取次廣告

配 合 肥 料 原 料  
 過 燐 酸 石 灰  
 燐 酸 加 里 肥 料  
 硫 酸 安 母 尼 亞  
 硫 酸 加 里 肥 料  
 加 里 肥 料  
 智 利 豆 石  
 大 豆 粕  
 菓 種 油 粕  
 蒸 製 骨 粉  
 蒸 製 生 骨 粉  
 其 他 的 肥 料

本代理店一般農家の利益の  
 爲めに共同配合者、共同購  
 入者は勿論一般當業者の爲  
 めに最廉の價格を以て取次  
 紹介の依頼に應ず尙ほ蔬菜  
 花卉、除虫菊種子、殺鼠劑  
 噴霧器并水揚ポンプ等の取  
 次をなす

大坂市北區上福島中一丁目

關西農報社代理部

327  
866



終

